

参考資料

1. 市民等意向調査

1-1 第5次泉佐野市総合計画 アンケート調査

【調査の目的】

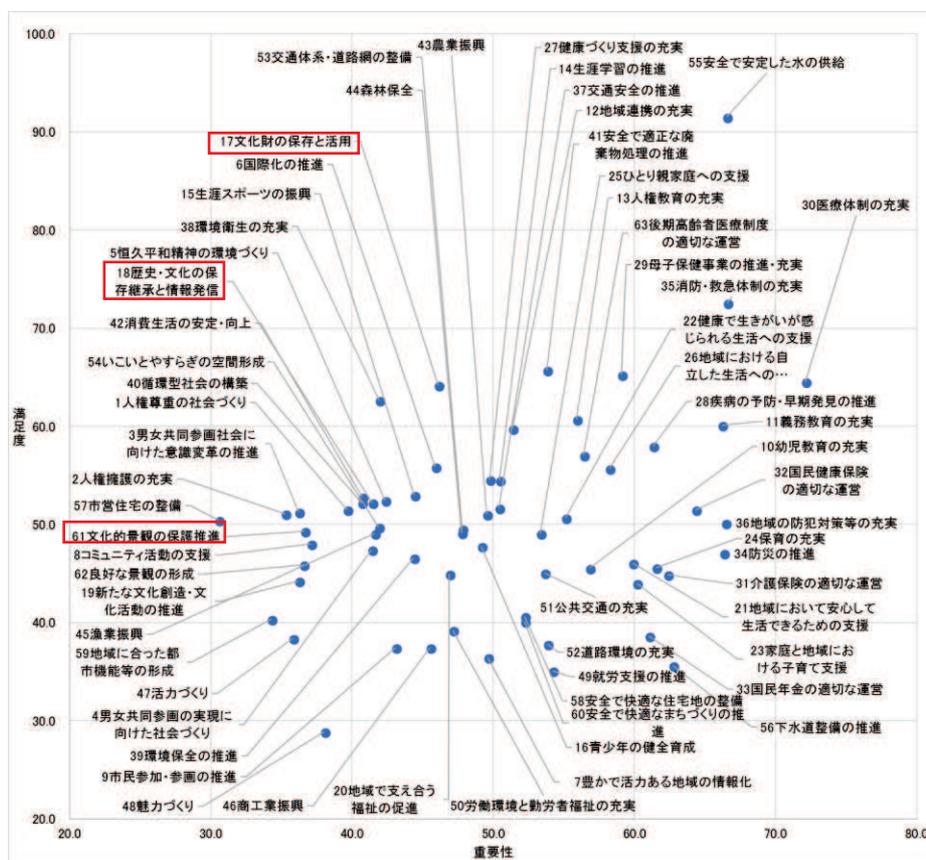
泉佐野市の印象、施策などに対する市民の認識やニーズなどを把握し、泉佐野市総合計画の進捗管理や計画に掲げる成果指標の目標設定のための基礎資料とすることを目的に実施された。

【調査内容】

対象地域	泉佐野市全域
調査対象	市内に在住する満 18 歳以上の男女
抽出数	3,000 件（無作為抽出）
調査時期	平成 30 年（2018）4 月 19 日～5 月 30 日

【調査結果】

泉佐野市のまちづくりについて、満足度と重要度に関する市民意識を調査した結果、歴史文化に関わることとして、「文化財の保存と活用」は、満足度は平均値 50 を上回り、全ての項目の中でも高い値にある。「歴史・文化の保存継承と情報発信」と「文化的景観の保護推進」は概ね平均値となっている。重要性については、いずれも平均値 50 を下回っている。



1-2 地域ワークショップによる意識調査

【調査の目的】

ワークショップにおいて作成する紙芝居の完成を目指すものでなく、地元住民と外からの若者来訪者との将来に継承したい泉佐野の歴史文化資源の意識の差異を確認し、地域計画の中で、これらに対してどのような保護措置を講じるかを検討する。

【調査の方法等】

調査日：令和元年12月14日（土）、令和2年1月12日（日）

調査者：一瀬委員、京都橘大学文学部3回生20名

調査対象者：地元住民や施設の管理人など

調査場所：泉佐野市漁業協同組合、旧向井家住宅、樫井東町会館、犬鳴温泉センター、日根神社

調査方法：(1)4つテーマ（海・川・野・山）ごとにグループとなり、興味を持った歴史文化資源等を取り入れながら、テーマにまつわるストーリーを紙芝居形式で創作。

(2)各テーマに関連する地域や施設等で地元住民に紙芝居を発表。

(3)地元住民に紙芝居に対する感想や取り上げてほしい歴史文化資源について聞き、地元住民が大切にしたい歴史文化資源を抽出。

(4)地域住民が意識する歴史文化資源と市外の若者来訪者が興味をもった歴史文化資源（紙芝居に登場する資源）との差異を確認。

【調査の結果】

① 地域住民が意識する歴史文化資源（2重下線は市外の若者来訪者と意識が重なるもの）

- 海 泉州タオル、佐野くどき、浜辺の歴史、りんくうタウン界限、食野家、いろは蔵、泉たこ、あなご、がっちよ、じゃこごうこ、春日神社の夏祭り（太鼓台）
- 川 蟻通神社、樫井合戦（大坂夏の陣）、武士の墓所
- 野 日根荘、まくらまつり、国宝、長福寺、火走神社、大木小学校、大井関公園（桜の名所）、井川の治水、日根神社、水ナス
- 山 犬鳴伝説（義犬伝説、志津の涙）、犬鳴トンネル（幽霊話）、不動尊の由来

② 市外の若者来訪者（学生）が興味をもった歴史文化資源

- 海 【紙芝居タイトル：クルーズ一家の泉佐野旅行】
泉佐野漁港での海釣り、青空市場、バーベキュー、郷土芸能のつどい、佐野くどき、泉州タオル館、後晒し工法、関西空港
- 川 【紙芝居タイトル：不思議な泉佐野のバスガイド】
奥家住宅、旧向井家住宅、じゃこごうこ、水ナス、北庄司酒造
- 野 【紙芝居タイトル：マーロージャー まくら祭りと日根荘】
政貴公、日根神社、日根荘、まくらまつり、荒野の開発、米づくり、水ナス
- 山 【紙芝居タイトル：犬鳴山 体験と癒しの思い出】
犬鳴温泉（犬鳴温泉センター）、修験体験、義犬伝説、犬鳴トンネル、幽霊伝説

■調査結果の整理と分析

- ・指定等文化財は①、②が意識する歴史文化資源から脱落していた。
- ・②は現在の日常生活と関わる水ナスや酒蔵、泉州タオル等が残り、また、佐野くどぎ、まくらまつりなどの無形遺産に特化している。
- ・①の記憶遺産と言うべきものは山では、「義犬伝説」、川は「大阪夏の陣」のような伝承系が記憶遺産として紙芝居に欠かせないものだという意見になっている。
- ・学生と地元との温度差がないものとして、山では「大木隧道」という幽霊伝説、川では「じゃこごうこ」が一致した歴史文化資源となった。

【調査結果から見える課題】

- ・指定文化財等の所在、存在自体が知られていない。
- ・地域の歴史に対し、地域住民が興味をもてるようなしかけが必要である。
- ・地域の子供（若者）たちが地域の歴史を知ったり、身につく機会がない。
- ・現地を訪ねる際のトイレの整備や駐車場等がない。
- ・地元が大切に思う歴史遺産を歴史文化資源から抽出し、保護する必要がある。
- ・歴史館いずみさの等での歴史文化にかかる普及啓発が十分に効果を果たしていない。
- ・農業や漁業、タオル等の産業振興や自然保護、まつりなどの伝承を大切に思う意見が多く、逆に文化財の保存への意識がそれに比べて低い。

1-3 指定等文化財所有者に対する意識調査

1. 配布・回収状況

【配布状況】

所有者アンケートは 146 件を郵送による配布を行った。日根荘遺跡（指定地 16 箇所）を含み過半数（54%）を占める「史跡」を除くと、「美術工芸品(35 件、24%)」および「建造物(21 件、14%)」が多い。

地区別（次ページ参照）では犬鳴山など市南側の大半を占める「日根野・上之郷・土丸・大木地区(109 件、75%)」（以下、「上之郷ほか地区」とする）」ともっとも多く、次いで「佐野地区(22 件、15%)」である。

【回収状況】

回収も郵送で行い、回収数は 71 件で回収率は 49%であった。

類型ごとにみると、「美術工芸品」が 25 件(35%)をもっとも多く、次いで「史跡(22 件、31%)」「建造物(15 件、21%)」、である。

地区別では「上之郷ほか地区」が 38 件(69%)ともっとも多く、過半数を占める。

表 アンケート配布・回収状況

		配布数	回収数	構成比	回収率
類型	建造物	21	15	21%	71%
	美術工芸品	35	25	35%	71%
	有形民俗文化財	2	2	3%	100%
	無形民俗文化財	4	2	3%	50%
	史跡	79	22	31%	28%
	名勝	1	1	1%	100%
	天然記念物	3	3	4%	100%
	文化的景観	1	1	1%	100%
地区	長南	9	8	11%	89%
	佐野	22	11	15%	50%
	北中	4	2	3%	50%
	上之郷ほか	109	49	69%	45%
	遺跡	2	1	1%	50%
	総計	146	71	100%	49%

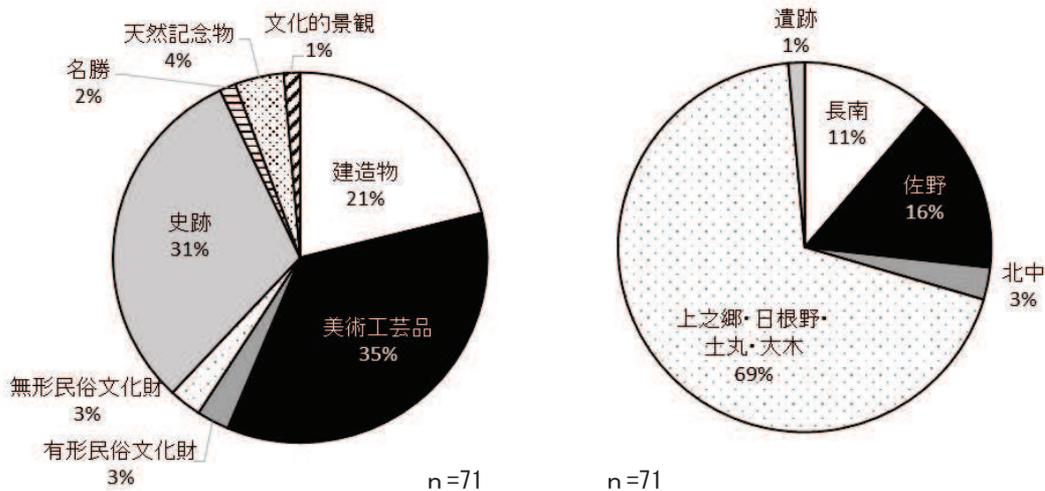


図 回収者の分類 (左: 類型、右: 地区)

2. 調査結果

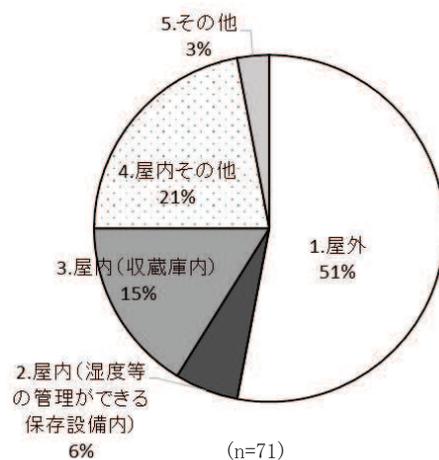
(1) 文化財の保存状況

① 保管・保存場所

保管・保存場所としては、「屋外」が51%と最も多く、次いで「屋内（その他）（21%）」、「屋内（収蔵庫内）（15%）」であり、屋内と屋外でほぼ半々となっている。

類型別では、建造物、史跡はほとんどが「屋外」で、美術工芸品は「屋内（その他）」、「屋内（収蔵庫内）」に分かれる。

「屋内その他」としては、押し入れや本堂、「その他」としては、「土塀」の記載があった。



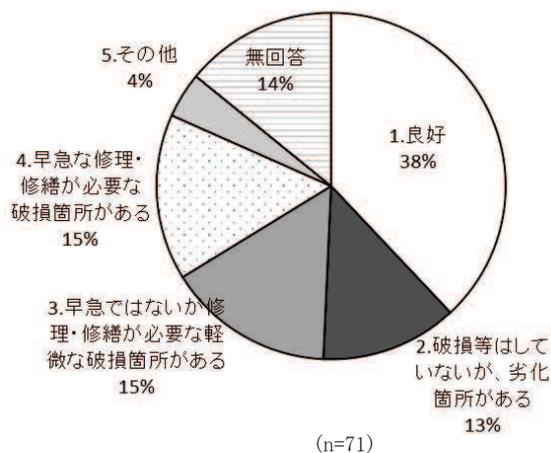
問1 対象の文化財（無形民俗文化財の場合は用具等）はどのような場所で保管・保存されていますか？（あてはまる番号1つに○）

類型 地区	屋外	屋内(湿度等の管理ができる保存設備内)	屋内(収蔵庫内)	屋内(その他)	その他	無回答	総計
建造物	14	0	0	0	1	0	15
美術工芸品	0	4	10	11	0	0	25
有形民俗文化財	0	0	1	1	0	0	2
無形民俗文化財	0	0	0	2	0	0	2
史跡	18	0	0	0	1	3	22
名勝	1	0	0	0	0	0	1
天然記念物	1	0	0	0	0	0	3
文化的景観	0	0	0	1	0	0	1
割合	50.7%	5.6%	15.5%	21.1%	2.8%	4.2%	100%

② 保存状態

保存状態は、「良好」が38%と最も多いが、次いで「早急ではないが修理・修繕が必要な軽微な破損箇所がある」および「早急な修理・修繕が必要な破損箇所がある」が15%であり、3割が修理・修繕が必要な破損箇所を抱えている。

「早急な修理・修繕が必要な破損箇所がある」は「建造物」で多い。



問2 対象の文化財（無形民俗文化財の場合は用具等）はどのような保存状態ですか？（あてはまる番号1つに○）

類型 地区	良好	破損等はないが、劣化箇所がある	早急ではないが修理・修繕が必要な軽微な破損箇所がある	早急な修理・修繕が必要な破損箇所がある	その他	無回答	総計
建造物	5	4	0	6	0	0	15
美術工芸品	15	1	3	2	0	4	25
有形民俗文化財	1	1	0	0	0	0	2
無形民俗文化財	0	1	1	0	0	0	2
史跡	3	2	6	3	3	5	22
名勝	0	0	0	0	0	1	1
天然記念物	3	0	0	0	0	0	3
文化的景観	0	0	1	0	0	0	1
総計	27	9	11	11	3	10	71
割合	38.0%	12.7%	15.5%	15.5%	4.2%	14.1%	100%

③直近10年の修理、修繕状況

26の文化財で修理、修繕が行われているが、半分以上の文化財で行われていない。

建造物では塀や垣根の修理、屋根の葺替えが行われているほか、本殿の解体も行われている。美術工芸品では仏像への薬液注入、絵画の補強など、有形民俗文化財では改修など、無形民俗文化財では楽器の補修、新調、台車車輪の修理など、史跡では池の復元、屋根修理、防水処理、倒木処理など、天然記念物では樹勢回復工事、文化的景観ではだんじりの修理が行われている。

問3 対象の文化財（無形民俗文化財の場合は用具等）に対して、最近約10年以内に実施した修理・修繕の対象箇所・部位、実施時期、内容についてお聞かせください。

類型	件数	箇所数	内容
建造物	10件	22箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・壁修理 ・部分修理 ・軒修理 ・錠前取替 ・障子はりかえ ・玄関出入口,外蔵出入口スロープのつくり替 ・竹垣設置 ・銅板の社紋取り替え など ・屋根修理、葺替（檜皮） ・塗装工事 ・解体 ・雨戸,板の補修 ・玄関前溝,木製蓋のつくり替 ・鬼飾取り替え
美術工芸品	4件	16箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・薬液注入 ・保存箱新調 ・葺替え工事 ・補強等
有形民俗文化財	1件	2箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・金体改修 ・屋根等付替
無形民俗文化財	2件	3箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・三味線皮の貼り替え ・太鼓のバチの子備新調（折れたり、先がはがれる為） ・台車車輪の解体修理
史跡	6件	7箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・池の復元 ・屋根部材交換、防水処理 ・屋根葺替え ・葉刈剪定、倒木処理
天然記念物	2件	2箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢回復工事
文化的景観	1件	1箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・だんじり彫り物、他全体修理

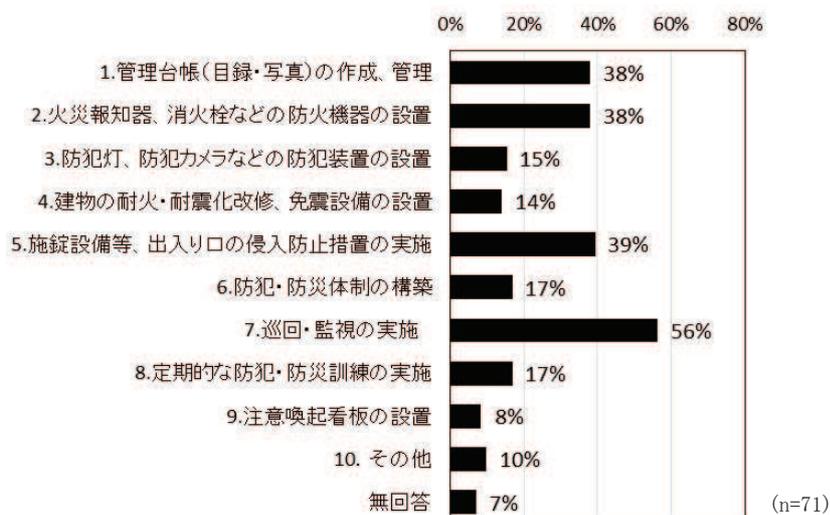
④防犯、防災対策

防犯・防災対策として、「巡回・監視」の実施が56%でもっとも多く、次いで「施錠設備等、出入り口の侵入防止措置の実施(39%)」および「管理台帳(目録・写真)の作成、管理(38%)」「火災報知器、消火栓などの防火機器の設置(38%)」である。

建造物、美術工芸品では、「管理台帳(目録・写真)の作成、管理」、「火災報知器、消火栓などの防火機器の設置」、「施錠設備等、出入り口の侵入防止措置の実施」、「巡回・監視の実施」、「定期的な防犯・防災訓練の実施」を複合的に実施しているところが多い。一方、史跡や無形文化財では「巡回・監視」が多い。

巡回・巡回の頻度としては、「毎日」や「週一」が多くと、頻繁に行われている。

問4 対象の文化財(無形民俗文化財の場合は用具等)に対して、どのような防犯、防災対策をしていますか?(あてはまる番号すべてに○)



類型 地区	管理台帳(目録・写真)の作成、管理	火災報知器、消火栓などの防火機器の設置	防犯灯、防犯カメラなどの防犯装置の設置	建物の耐火・耐震化改修、免震設備の設置	施錠設備等、出入り口の侵入防止の設置	防犯・防災体制の構築	巡回・監視の実施	定期的な防犯・防災訓練の実施	注意喚起看板の設置	その他	無回答	回答者数
建造物	7	11	4	1	7	6	10	7	2	2	0	15
美術工芸品	18	14	6	9	17	4	12	4	0	0	0	25
有形民俗文化財	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
無形民俗文化財	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
史跡	1	2	1	0	1	1	13	1	3	3	5	22
名勝	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1
天然記念物	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
文化的景観	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
総計	27	27	11	10	28	12	40	12	6	7	5	71
割合	38.0%	38.0%	15.5%	14.1%	39.4%	16.9%	56.3%	16.9%	8.5%	9.9%	7.0%	100%

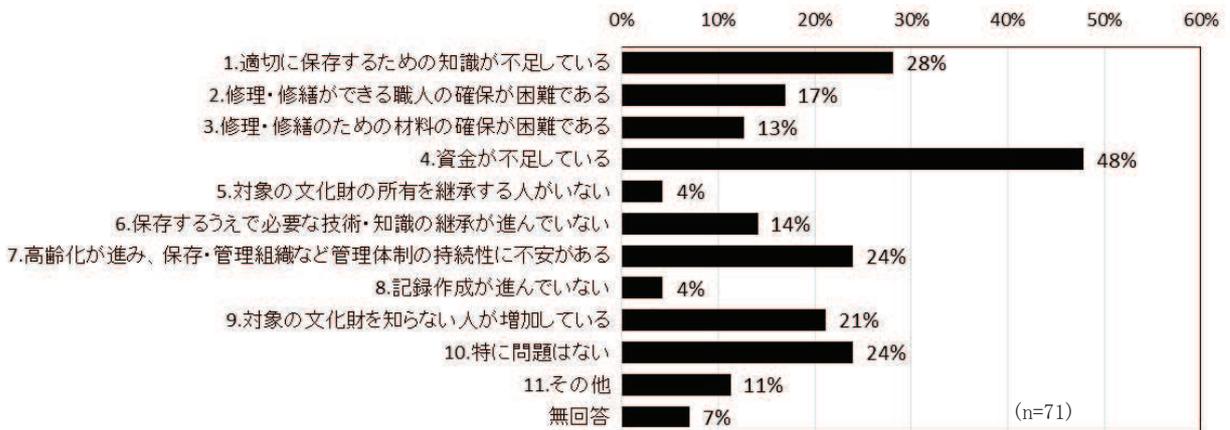
⑤文化財を維持管理、継承するうえでの問題点

「資金が不足している」がほぼ半数を占めもっとも多く、次いで「適切に保存するための知識が不足している(28%)」、「高齢化が進み、保存・管理組織など管理体制の持続性に不安がある(24%)」となっており、資金と知識、人材の不足が課題となっている。一方で、「特に問題がない」も24%みられる。

資金の不足は建造物でとくに多く約9割を占めるが、美術工芸品では「特に問題はない」がもっとも多い。

地区別では、長南地区で資金不足を課題としている文化財が多い。

問5 対象の文化財を維持管理、継承するうえでの問題点はありますか？（あてはまる番号すべてに○）

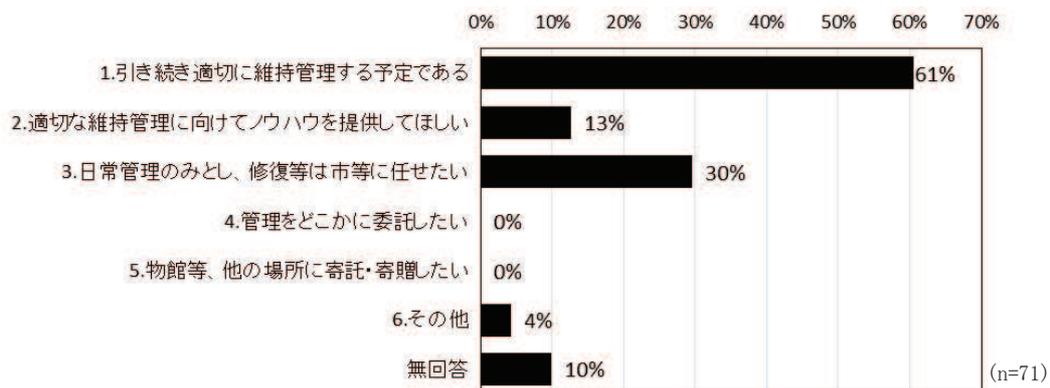


類型 地区	適切に保存するための知識が不足している	修理・修繕ができる職人の確保が困難である	修理・修繕のための材料の確保が困難である	資金が不足している	対象の文化財の所有を継承する人がいない	保存するうえで必要な技術・知識の継承が進んでいない	高齢化が進み、保存・管理組織など管理体制の持続性に不安がある	記録作成が進んでいない	対象の文化財を知らない人が増加している	特に問題はない	その他	無回答	回答者数
	建造物	6	3	3	13	2	3	8	1	5	0	2	0
美術工芸品	8	6	5	8	0	4	2	0	6	10	1	2	25
有形民俗文化財	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
無形民俗文化財	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
史跡	4	3	1	9	1	3	7	0	4	3	4	3	22
名勝	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
天然記念物	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
文化的景観	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
総計	20	12	9	34	3	10	17	3	15	17	8	5	71
割合	28.2%	16.9%	12.7%	47.9%	4.2%	14.1%	23.9%	4.2%	21.1%	23.9%	11.3%	7.0%	100%

⑥今後の保存、維持管理についての考え方

今後については、「引き続き適切に維持管理する予定である」が61%と大半を占め、次いで「日常管理のみとし、修復等は市等に任せたい(30%)」、「適切な維持管理に向けてノウハウを提供してほしい(13%)」であり、ほとんどが基本となる部分は所有者が行いたいとしている。管理を委託したいや寄託・寄贈したい所有者は見られないが市の協力や管理を期待される所有者がみられる。

問6 対象の文化財の今後の保存、維持管理についてどう考えていますか？（あてはまる番号1つに○→複数回答者が多いため複数で整理）



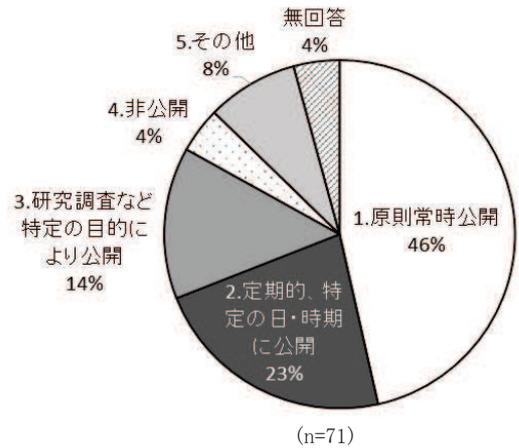
類型 地区	引き続き適切に維持管理する予定である	適切な維持管理に向けてノウハウを提供してほしい	日常管理のみとし、修復等は市等に任せたい	管理をどこかに委託したい	物館等、他の場所に寄託・寄贈したい	その他	無回答	回答者数
建造物	11	4	4	0	0	2	0	15
美術工芸品	20	4	2	0	0	0	4	25
有形民俗文化財	2	0	0	0	0	0	0	2
無形民俗文化財	1	0	1	0	0	0	0	2
史跡	7	1	11	0	0	1	3	22
名勝	0	0	1	0	0	0	0	1
天然記念物	1	0	2	0	0	0	0	3
文化的景観	1	0	0	0	0	0	0	1
総計	43	9	21	0	0	3	7	71
割合	60.6%	12.7%	29.6%	0.0%	0.0%	4.2%	9.9%	100%

(2) 文化財の活用状況

① 公開状況

公開状況は、史跡や建造物をはじめとする「原則常時公開」がほぼ半数を占める。美術工芸品、文化的景観、有形民俗文化財、無形民俗文化財では「定期的、特定の日・時期に公開」が多い。

「研究調査など特定の目的により公開」は美術工芸品、有形民俗文化財で見られる。「目的」は美術工芸品で、展示、調査・研究となっている。



問7 現在、対象の文化財をどの程度公開していますか？（あてはまる番号 1 つに○）

類型 地区	原則常時公開	定期的、特定の日・時期に公開	研究調査など特定の目的により公開	非公開	その他	無回答	総計
建造物	10	1	0	2	2	0	15
美術工芸品	5	12	8	0	0	0	25
有形民俗文化財	0	1	1	0	0	0	2
無形民俗文化財	0	1	0	0	1	0	2
史跡	16	0	1	1	1	3	22
名勝	1	0	0	0	0	0	1
天然記念物	1	0	0	0	2	0	3
文化的景観	0	1	0	0	0	0	1
総計	33	16	10	3	6	3	71
割合	46.5%	22.5%	14.1%	4.2%	8.5%	4.2%	100%

「2. 定期的、特定の日・時期に公開」の公開日

類型	地区	公開日
建造物	1件	土・日・祝日・事前申込有
美術工芸品	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・市からの要望時 ・不定期（3件） ・春季、秋季（4件） ・1月中旬と10月1日・2日より1週間 ・月1～3, 2月3日 ・2月
無形民俗文化財	1件	日根神社まくらまつり（5月4日, 5日）

「3. 研究調査など特定の目的により公開」の目的

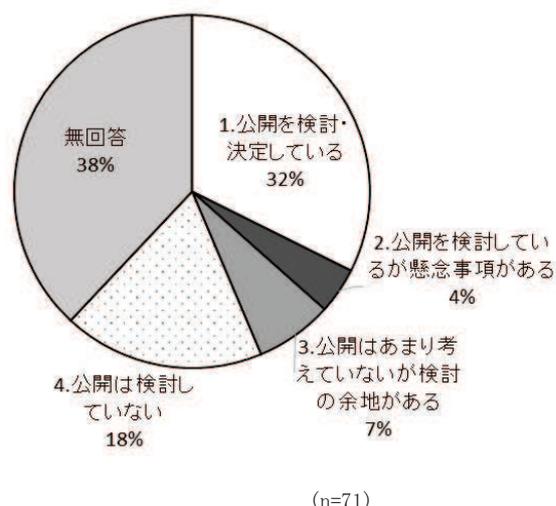
類型	地区	公開目的
美術工芸品	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・展示（博物館等） ・調査 ・研究 ・五重相伝会 10年に1回

②今後の公開意向

特に回答が無い所有者が約4割を占めるが、「公開を検討・決定している」が32%で、「公開は検討していない」の18%を上回る。

「公開を検討しているが懸念事項がある」の理由としては、公開の内容をどこまでとするかの課題が挙げられている。

「公開はあまり考えていないが検討の余地がある」および「公開は検討していない」の理由としては、管理不足や修理、防犯対策の必要性、対応する人手や知識の不足、個人所有文化財公開におけるプライバシーの問題が挙げられている。



問8 今後の公開について、どのような意向がありますか？（あてはまる番号1つに○）2～4をご回答の場合は、その理由をご記載ください。

類型 地区	公開を検討・決定している	公開を検討しているが懸念事項がある	公開はあまり考えていないが検討の余地がある	公開は検討していない	無回答	総計
建造物	4	2	0	5	4	15
美術工芸品	9	1	3	4	8	25
有形民俗文化財	0	0	1	1	0	2
無形民俗文化財	2	0	0	0	0	2
史跡	8	0	1	1	12	22
名勝	0	0	0	0	1	1
天然記念物	0	0	0	2	1	3
文化的景観	0	0	0	0	1	1
総計	23	3	5	13	27	71
割合	32.4%	4.2%	7.0%	18.3%	38.0%	100%

各回答の理由

回答	類型	理由
「2.公開を検討しているが懸念事項がある」の理由	建造物	・「公開」の内容はどこまで？
	美術工芸品	・色々な人に知ってもらいたい。
「3.公開はあまり考えていないが検討の余地がある」の理由	美術工芸品	・希望があれば
	有形民俗文化財	・必要があれば
	史跡	・防犯対策が必要
「4.公開は検討していない」の理由	建造物	・大修理が必要、管理不足
	史跡	・外部から見えるため
	天然記念物	・防犯上（盗難、破損保護のため）、プライバシーの問題
	美術工芸品	・対応できる人手がない
		・知識がない
		・劣化の恐れ
	美術工芸品	・防犯上（盗難、破損保護のため）
	有形民俗文化財	・公開の時期が決まっている。
		・公開しても見に来ない

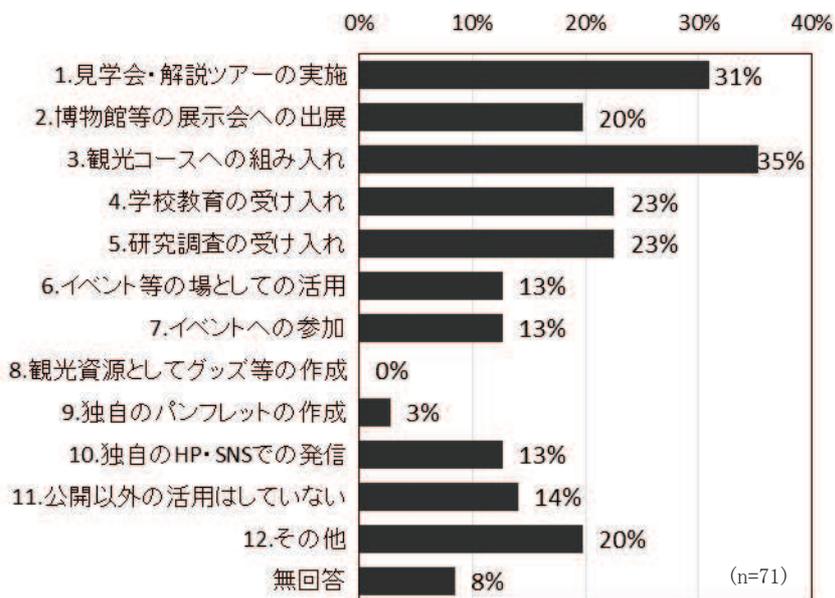
③公開以外の活用

公開以外の活用としては、「観光コースへの組み入れ(35%)」と「見学会・解説ツアーの実施(31%)」が多く、次いで「学校教育の受け入れ」および「研究調査の受け入れ」が23%で続いている。

建造物では「観光コースへの組み入れ」、「見学会・解説ツアーの実施」、「学校教育の受け入れ」が多く、美術工芸品では「見学会・解説ツアーの実施」、「博物館等の展示会への出展」「研究調査の受け入れ」が、史跡は「観光コースへの組み入れ」、「その他」としている。

地区別で見ると、長南地区では「見学会・解説ツアーの実施」、「イベントへの参加」が、佐野地区では「観光コースへの組み入れ」、「見学会・解説ツアーの実施」が、上之郷ほか地区では「観光コースへの組み入れ」、「学校教育の受け入れ」、「その他」、「見学会・解説ツアーの実施」が多くなっている。

問9 文化財の公開以外で、どのような活用をしていますか？（あてはまる番号すべてに○）



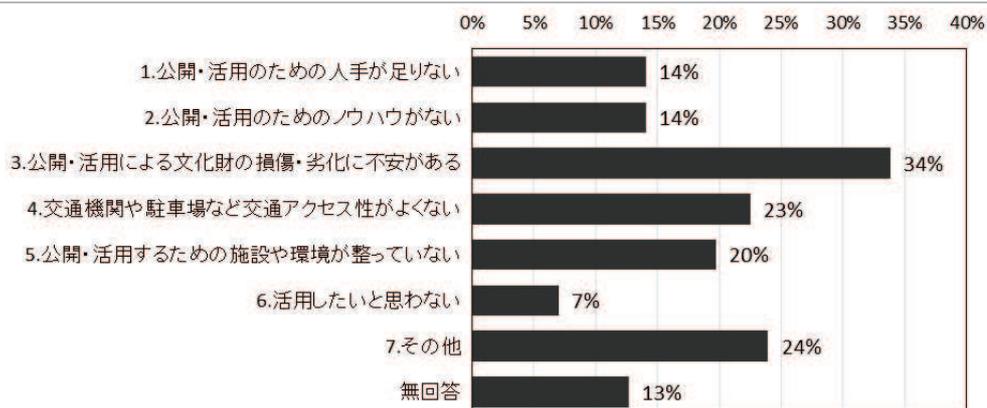
類型 地区	見学会・解説ツアーの実施	博物館等の展示会への出展	観光コースへの組み入れ	学校教育の受け入れ	研究調査の受け入れ	イベント等の場としての活用	イベントへの参加	観光資源としてグッズ等の作成	独自のパンフレットの作成	独自のHP・SNSでの発信	公開以外の活用はしていない	その他	無回答	回答者数
建造物	7	0	11	7	2	3	3	0	2	4	2	1	0	15
美術工芸品	14	13	6	4	12	3	4	0	0	3	2	2	1	25
有形民俗文化財	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
無形民俗文化財	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	2
史跡	1	0	8	5	1	2	0	0	0	1	4	8	5	22
名勝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
天然記念物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
文化的景観	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
総計	22	14	25	16	16	9	9	0	2	9	10	14	6	71
割合	31.0%	19.7%	35.2%	22.5%	22.5%	12.7%	12.7%	0.0%	2.8%	12.7%	14.1%	19.7%	8.5%	100%

④公開・活用における問題

「公開・活用による文化財の損傷・劣化に不安がある」が34%と最も多く、とくに美術工芸品で多くなっている。「その他」意見は、「とくに問題ない」といった意見がほとんどである。

地区別で見ると、上之郷ほか地区および佐野地区では「公開・活用による文化財の損傷・劣化に不安がある」が多く、長南地区では「交通機関や駐車場など交通アクセス性がよくない」および「公開・活用するための施設や環境が整っていない」、「公開・活用のための人手が足りない」が多い。

問 10 文化財の公開・活用において、どのような問題があると考えますか？（あてはまる番号すべてに○）



(n=71)

類型 地区	公開・活用のための人手が足りない	公開・活用のためのノウハウがない	公開・活用による文化財の損傷・劣化に不安がある	交通機関や駐車場など交通アクセス性がよくない	公開・活用するための施設や環境が整っていない	活用したいと思わない	その他	無回答	回答者数
建造物	1	1	3	4	3	2	5	2	15
美術工芸品	3	5	14	5	5	0	7	1	25
有形民俗文化財	1	0	1	0	1	1	0	0	2
無形民俗文化財	1	0	0	1	0	0	0	0	2
史跡	3	4	6	6	5	2	2	5	22
名勝	1	0	0	0	0	0	0	0	1
天然記念物	0	0	0	0	0	0	3	0	3
文化的景観	0	0	0	0	0	0	0	1	1
総計	10	10	24	16	14	5	17	9	71
割合	14.1%	14.1%	33.8%	22.5%	19.7%	7.0%	23.9%	12.7%	100%

「7.その他」の記載内容

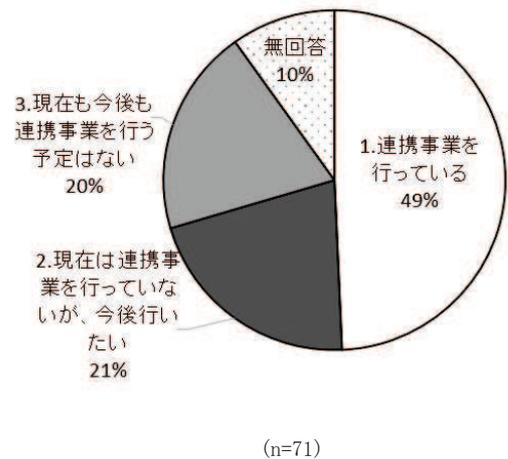
類型	その他
建造物 美術工芸品 天然記念物 史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の方への言葉の問題 ・盗難被害の問題 ・関係者の勉強不足 ・大阪府が設置した説明版が古くて傷んでいる ・公開済（3件） ・とくにない（7件）

⑤地域等との連携状況

すでに「連携事業を行っている」所有者が49%とほぼ半数を占める。「今後行いたい」は21%で、これをあわせると7割が連携に対して好意的である。

類型別では、「連携事業を行っている」は史跡以外で6割程度で、「今後行う予定が無い」は史跡、美術工芸品で6件ずつみられる。

地区別では、長南地区ではほぼすべての文化財で連携事業が行われている。佐野地区では「連携事業を行っている」と「今後行いたい」がほぼ半々である。上之郷ほか地区では「連携事業を行っている」が6割で、「今後行いたい」、「今後行う予定が無い」がそれぞれ2割を占める。



問 11 対象の文化財の活用にあたって、地域住民や学校等と連携した事業はありますか？
 (1) 連携事業を行っていますか？(あてはまる番号 1 つに○)

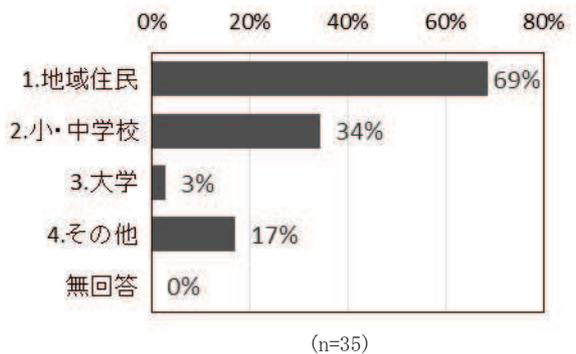
類型 地区	連携事業を行っている	現在は連携事業を行っていないが、今後行いたい	現在も今後もし連携事業を行う予定はない	無回答	総計
建造物	9	3	2	1	15
美術工芸品	15	6	3	1	25
有形民俗文化財	1	0	1	0	2
無形民俗文化財	2	0	0	0	2
史跡	7	6	6	3	22
名勝	0	0	0	1	1
天然記念物	0	0	2	1	3
文化的景観	1	0	0	0	1
総計	35	15	14	7	71
割合	49.3%	21.1%	19.7%	9.9%	100%

⑥現在の連携事業

連携先としては、「地域住民」が69%でもっとも多く、次いで「小・中学校」34%である。「その他」として寺院関係では檀家の方が挙げられている。

類型別に見ると、建造物で「小・中学校」がもっとも多く、美術工芸品では「地域住民」が、史跡では「地域住民」と「小・中学校」が同程度が多い。

地区別に見ると、長南地区、佐野地区では「地域住民」が多く、上之郷ほか地区では「地域住民」と「小・中学校」が同程度が多い。



(2) 現在 行っている連携事業についてお聞かせください。
 ① どのような方と連携事業を行っていますか？(あてはまる番号すべてに○)

類型 地区	地域住民	小・中 学校	大学	その他	無回答	回答者数
建造物	3	6	0	1	0	9
美術工芸品	12	0	1	5	0	15
有形民俗文化財	1	0	0	0	0	1
無形民俗文化財	2	1	0	0	0	2
史跡	5	4	0	0	0	7
名勝	0	0	0	0	0	0
天然記念物	0	0	0	0	0	0
文化的景観	1	1	0	0	0	1
総計	24	12	1	6	0	35
割合	68.6%	34.3%	2.9%	17.1%	0.0%	100%

「4.その他」の記載内容

類型	その他
建造物 美術工芸品	・行事等 ・檀家の方 ・参観ツアーの希望者

行っている連携内容としては、建造物の「小・中学校との連携」では、校外学習として見学、「地域住民との連携」では見学コースへの組み入れなど、美術工芸品の「地域住民との連携」では見学コースへの組み入れ、展示公開、また「大学との連携」では調査協力など、有形文化財、無形文化財の「地域住民」や「小・中学校との連携」では祭りへの参加、史跡の「地域住民」や「小・中学校との連携」では農業体験や、集会所や休憩所の提供、文化的景観として「日根荘大木の農村景観」では小中学生に笛・太鼓の練習指導が挙げられている。

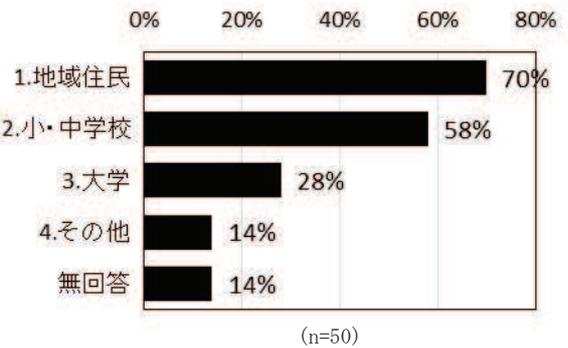
② どのような連携事業を行っていますか？

類型	連携内容
建造物	【小・中学校】 ・郷土めぐり、見学 ・社会副教材に掲載 ・校外学習フィードワークへの協力 【地域住民】 ・見学、ハイキングツアーのコース ・薪能
美術工芸品	【地域住民】 ・見学、ハイキングツアーのコース ・展示公開 【その他】 ・檀家さんへのお勤め、法事等 【大学】 ・調査協力
有形民俗文化財 無形民俗文化財	【地域住民】 ・祭り ・三味線・太鼓の指導 【小・中学校】 ・祭り
史跡 文化的景観	【地域住民】 【小・中学校】 ・観光ボランティア ・祭り休憩所、各団体の集会所、憩いの場、だんじりなどの保存の場 ・見学 ・社会副教材に掲載 ・希望者による農業体験 ・小中学生に笛・太鼓の練習を指導

⑦行いたい連携事業

連携したい相手としては、「地域住民」が71%、「小・中学校」が60%と多い。「その他」として、企業等や市等行政関係者が挙げられている。

類型別では、いずれも「地域住民」、「小・中学校」で多く、無形民俗文化財では「大学」も含めて多く挙げられている。



(3) 今後 行いたいと思っている連携事業についてお聞かせください。
① どのような方と連携事業を行いたいと思っていますか？（あてはまる番号すべてに○）

類型 地区	地域住民	小・中学校	大学	その他	無回答	回答者数
建造物	7	8	3	2	1	12
美術工芸品	17	14	8	1	4	21
有形民俗文化財	1	0	0	0	0	1
無形民俗文化財	2	1	2	1	0	2
史跡	7	5	1	3	2	13
名勝	0	0	0	0	0	0
天然記念物	0	0	0	0	0	0
文化的景観	1	1	0	0	0	1
総計	35	29	14	7	7	50
割合	70.0%	58.0%	28.0%	14.0%	14.0%	100%

② どのような連携事業を行いたいと思っていますか？

行いたい連携内容を見ると、展示公開や講和、部屋の利用等を通じて多様な連携先との連携が求められているほか、大学、地域住民等に対して継承や見学のための協力なども期待されている。

類型	連携内容
建造物	<p>【地域住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用できる部屋を地区の会議等に使ってほしい <p>【小・中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に連携したい（現在不定期） <p>【地域住民、小・中学校、大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵馬作製依頼、展示企画 ・蔵の外観とあわせた蔵の内部公開
美術工芸品	<p>【地域住民、小・中学校、大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示公開 ・絵馬を広く知ってもらえること ・和歌や歴史を学べること
無形民俗文化財	<p>【地域住民、大学、その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者と連携事業を行い、その中の何人かの継承を希望
史跡	<p>【小・中学校、大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究、見学等に際しての協力 <p>【地域住民、小・中学校、その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント（音楽祭、展示会） ・地域住民への歴史的経緯の紹介

⑧文化財を活用するうえで取り組みたいこと

道路や看板の整備といった周辺環境の整備のほか、関心を持つ人を増やすためのPRや講座や音楽会、大会などのイベントの開催などが挙げられている。

問 12 今後、対象の文化財を活用するうえで、取り組みたいことがあればお聞かせください。

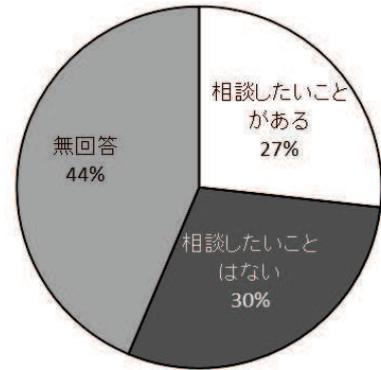
類型	活用内容
建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動に使用 ・入口の道路整備、看板設置、道の塗装（入口がわかりにくい） ・週一日の休館日以外はいつでも、誰でも見学・施設利用を図りたい ・舞殿を活用した音楽会など ・まちの活性化 ・蔵全体の修理
美術工芸品	<ul style="list-style-type: none"> ・絵馬を広く知ってもらえるような事業（百人一首大会・和歌作成など） ・百人一首の大会・和歌の作成など ・まちの活性化
無形民俗文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・講座を年間通じて数回実施し、文化財に興味のある方を増やしていきたい ・PR
史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・入口の道路整備,看板設置 ・近隣の遺跡とのタイアップ ・吊り橋、犬鳴温泉をつなぐ遊歩道整備 ・川にホタル、畑に花を咲かせたい ・ふるさとを語る会を持ちたい

(3) 保存・活用に係る意見

① 相談内容

「無回答」と「相談したいことはない」をあわせて74%で、「相談したいことがある」は27%である。

「相談したいことがある」は、類型別では建造物で7件、美術工芸品で5件、史跡で5件、天然記念物で2件、地区別では、上之郷ほか地区で11件、長南地区、佐野地区で4件である。



(n=71)

問 13 対象の文化財の保存活用にに関して、泉佐野市文化財保護課にご相談したいことはありますか？（あてはまる番号1つに○）
 ご相談したいことがある方は、その内容についてお聞かせください。

類型 地区	相談したいことがある	相談したいことはない	無回答	総計
建造物	7	3	5	15
美術工芸品	5	7	13	25
有形民俗文化財	0	1	1	2
無形民俗文化財	0	1	1	2
史跡	5	8	9	22
名勝	0	0	1	1
天然記念物	2	1	0	3
文化的景観	0	0	1	1
総計	19	21	31	71
割合	26.8%	29.6%	43.7%	100%

相談内容としては、費用を含めて修繕に関する内容や防災、維持管理に関する内容が挙げられている。

また、市や府への維持管理に対する要望、苦情が挙げられている。

類型	相談内容
建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災について ・ 文化財の指定について ・ 修繕費用、補助金制度について ・ 自然災害・地震等への対策や保険加入などについて
美術工芸品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財の修理、劣化対応について ・ 画像データ等の提供希望 ・ 他がどのような活用をしているか知りたい
史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修繕費用について ・ 文化財の維持・管理（雨漏り対策等） ・ 防災体制 ・ 文化財は市で管理してほしい
天然記念物	環境保全や維持管理に対する府の姿勢や支援等が不安

②問題点、意見

問題点、意見としては、修繕、改修にかかる要望、自由な樹木剪定や防犯カメラの設置、街の活性化や、外国人への対応方法の検討が挙げられている。

また、補修費や管理費等について行政からの支援が求められている。

問 14 その他、対象の文化財の保存・活用に当たっての問題点やご意見はありますか？

類型	相談内容
建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・大修理を希望 ・自由にさせてほしい（剪定、防犯カメラの設置） ・文化財の保護（アライグマからの保存） ・管理台帳見本等の提供 ・建造物の画像データの提供 ・まちの活性化について考えるべき ・修復について考えるべき ・外国人への対応方法を考えるべき
美術工芸品	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史館で文化財をくん蒸される時などに一緒にしてほしい ・まちの活性化について考えるべき ・修復について考えるべき ・信仰の対象なので取扱いが難しい ・保存専用施設の必要性
有形民俗文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・今の山車を市が買取り交、新しいものに交換してはどうか（市の観光資源として有効）
史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・自由にさせてほしい（剪定、防犯カメラの設置） ・補修・改修の資金不足 ・文化財の整備 ・道路のインフラ、駐車場、登山道入口案内表示の確保 ・市民の意識や高めるための手立てが必要 ・市への保存・管理等の全面委託（山頂の社、登山道の整備等々） ・簡単に見廻る事ができない
名勝	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金に関する情報提供希望
天然記念物	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による倒木不安 ・日常維持管理に多額の経費がかかるため保存限界、所有者負担が大きい ・説明板の改修も含めよりきめ細やかな行政の支援が不可欠

1-4 活用事業者に対する意識調査

1. 配布・回収状況

【配布状況】

活用に関するアンケートは18件に配布した。「観光・地域振興」および「交通」に関する事業者が5件(28%)で、「歴史・文化」および「旅行」に関する事業者が3件(17%)、「広報」に関する事業者が2件(11%)である。

【回収状況】

回収数は14件で回収率は78%であった。

構成比は、「観光・地域振興」が5件(36%)、「交通」が4件(29%)、「歴史・文化」が3件(21%)で、「広報」および「旅行」が1件(7%)である。

表 アンケート配布・回収状況

事業者分類	配布数	回収数	構成比	回収率
観光・地域振興	5	5	36%	100%
交通	5	4	29%	80%
広報	2	1	7%	50%
旅行	3	1	7%	33%
歴史・文化	3	3	21%	100%
総計	18	14	100%	78%

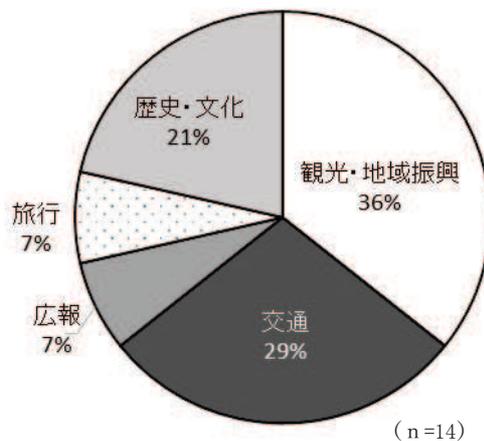


図 回収者の分類

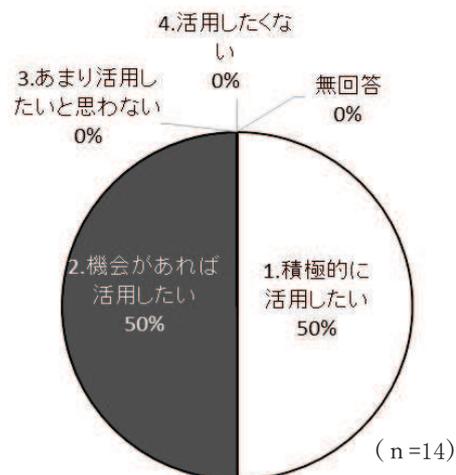
2. 調査結果

(1) 歴史文化資源の活用状況

①活用意向

「積極的に活用したい」と「機会があれば活用したい」が半々で、ほぼすべての事業者が歴史文化資源を活用したいと考えている。

観光・地域振興および歴史・文化事業者では「積極的に活用したい」が大半を占め、交通事業者では全てが「機会があれば活用したい」である。



問1 泉佐野の歴史文化資源を活用したいと思いますか？（あてはまる番号1つに○）既に活用されている場合でもご意向に近いものを選択してください。また、その回答理由についてお聞かせください。

	積極的に活用したい	機会があれば活用したい	あまり活用したいと思わない	活用したくない	無回答	総計
観光・地域振興	4	1	0	0	0	5
交通	0	4	0	0	0	4
広報	1	0	0	0	0	1
旅行	0	1	0	0	0	1
歴史・文化	2	1	0	0	0	3
総計	7	7	0	0	0	14
割合	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%

「1.積極的に活用したい」理由

分類	理由
観光・地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドをする上で必要 ・地場産業として地域連携を推進
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社会員自治体であるため ・泉南地域において最も豊富な歴史文化資源を誇り、その特色を活かした展覧会、見学会を開催可能なため
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の価値を定着させるために、資料の詮索も含めて関わりたい

「2.機会があれば活用したい」理由

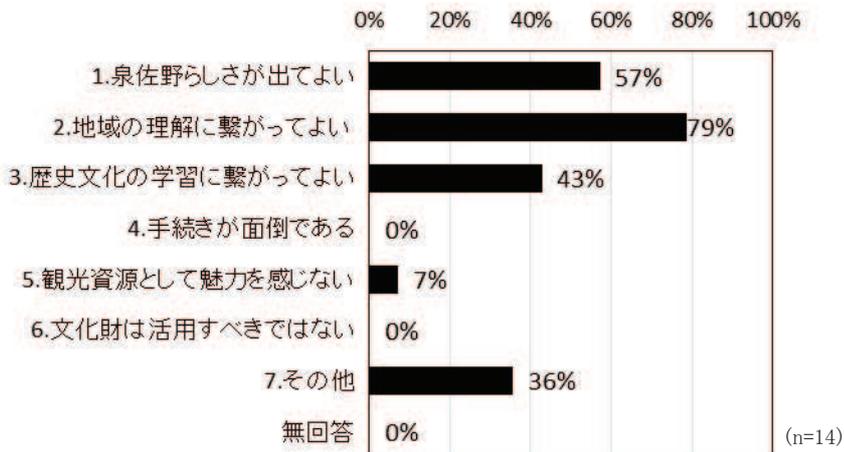
分類	理由
歴史・文化 旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・多大な影響を及ぼしている歴史文化資源であれば、特に活用したい ・現地集合の歴史ツアーは一定の様需要があるため
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・関西全体におけるキラーコンテンツのPRを行っているため ・関空からの立地が良いためインバウンド向けの素材があればと思う。歴史的価値、知名度未知数。 ・地場産業や史跡を中心に観光資源等をセミナーで紹介し、市への誘客をはかりたい ・バス路線の活性化になればと思う

②活用について

歴史文化資源の活用については、「地域の理解につながってよい」が79%で、「泉佐野らしさが出てよい」が57%で続いている。「手続きが面倒である」「文化財は活用すべきではない」の回答は見られない。

「地域の理解につながってよい」は交通および歴史・文化事業者が多く、「泉佐野らしさが出てよい」は観光・地域振興事業者が多く、「歴史文化の学習に繋がってよい」は歴史・文化事業者が多い。

問2 歴史文化資源を活用することについてどのように思いますか？（あてはまる番号すべてに○）



	泉佐野らしさが出てよい	地域の理解に繋がってよい	歴史文化の学習に繋がってよい	手続きが面倒である	観光資源として魅力を感じない	文化財は活用すべきではない	その他	無回答	回答者数
観光・地域振興	5	2	1	0	0	0	3	0	5
交通	1	4	2	0	0	0	1	0	4
広報	0	1	0	0	1	0	0	0	1
旅行	0	1	0	0	0	0	0	0	1
歴史・文化	2	3	3	0	0	0	1	0	3
総計	8	11	6	0	1	0	5	0	14
割合	57.1%	78.6%	42.9%	0.0%	7.1%	0.0%	35.7%	0.0%	100%

「7.その他」の記載内容

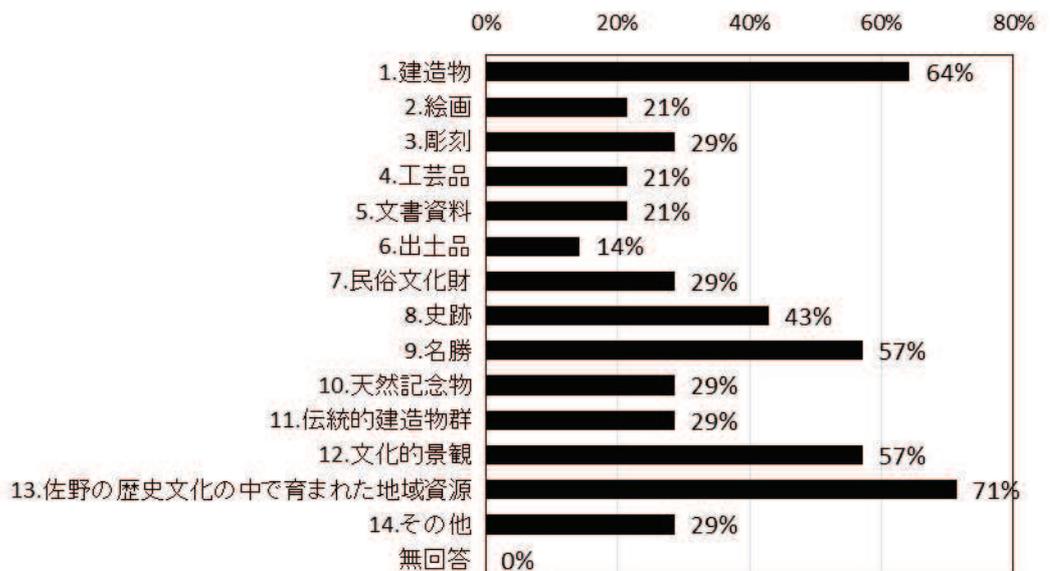
分類	理由
観光・地域振興	・観光資源の可能性を秘めている ・外国人対応に繋がる
交通	・有名社寺等あればいいと思うが、無いと難しいのではないかと感じる
歴史・文化	・現在、残っている歴史文化資源の管理、把握が必要

③活用したい資源

活用したい資源としては、「(犬鳴山温泉、農林漁業、タオル産業、郷土料理など) 佐野の歴史文化の中で育まれた地域資源(71%)」、「(社寺、民家、近代建築物など) 建造物(64%)」、「(犬鳴山、佐野松原など) 名勝(57%)」、「(大木の農村景観など) 文化的景観(57%)」を過半数の事業者が回答している。

観光・地域振興事業者は広く複数に渡る回答が多いが「佐野の歴史文化の中で育まれた地域資源」がもっとも多く、交通事業者は「名勝」「佐野の歴史文化の中で育まれた地域資源」がもっとも多い。

問3 どういう歴史文化資源を活用したいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)



(n=14)

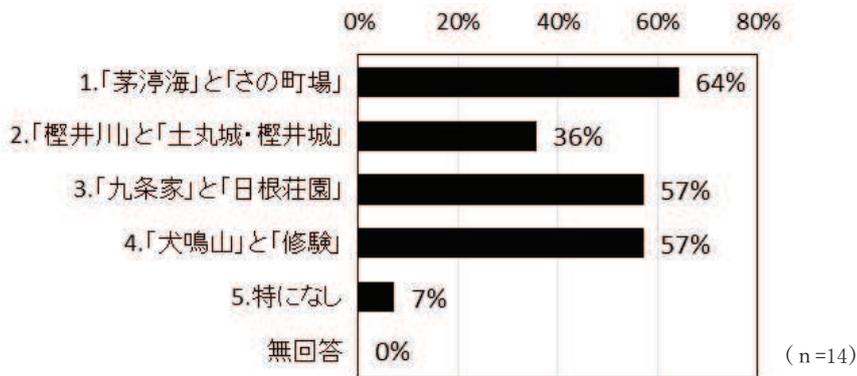
	建造物	絵画	彫刻	工芸品	文書資料	出土品	民俗文化財	史跡	名勝	天然記念物	伝統的建造物群	文化的景観	佐野の歴史文化の中で育まれた地域資源	その他	無回答	回答者数
観光・地域振興	4	1	1	2	1	1	2	2	4	2	2	4	5	1	0	5
交通	2	0	1	0	0	0	1	2	3	0	1	2	3	0	0	4
広報	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1
旅行	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
歴史・文化	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	0	3
総計	9	3	4	3	3	2	4	6	8	4	4	8	10	4	0	14
割合	64.3%	21.4%	28.6%	21.4%	21.4%	14.3%	28.6%	42.9%	57.1%	28.6%	28.6%	57.1%	71.4%	28.6%	0.0%	100%

④活用したいストーリー

活用したいストーリーは、「茅渟海」と「佐野町場」～海が育む職能・伝統～(64%)」および「九条家」と「日根荘園」～野に開く荘園の実り～(54%)、「犬鳴山」と「修験」～山のくらしと信仰～(57%)である。

「茅渟海」と「佐野町場」～海が育む職能・伝統～を選んだ理由として、高齢者がまち歩きを行う場合に起伏が激しくないことなどが挙げられており、「樫井川」と「土丸城・樫井城」～川が築く堰、道、王子、城～を選んだ理由としては城郭ツアーが人気であること、「犬鳴山」と「修験」～山のくらしと信仰～を選んだ理由としてはストーリーのわかりやすさ、路線バスルートとの関連が挙げられている。

問4 活用したいと思う歴史ストーリーは何ですか？（あてはまる番号すべてに○）また、その回答理由についてお聞かせください。



	①「茅渟海」と「佐野町場」	②「樫井川」と「土丸城・樫井城」	③「九条家」と「日根荘園」	④「犬鳴山」と「修験」	特になし	無回答	回答者数
観光・地域振興	5	2	4	4	0	0	5
交通	1	1	1	2	1	0	4
広報	1	0	1	0	0	0	1
旅行	0	1	0	0	0	0	1
歴史・文化	2	1	2	2	0	0	3
総計	9	5	8	8	1	0	14
割合	64.3%	35.7%	57.1%	57.1%	7.1%	0.0%	100%

活用したい理由

	理由
①	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源としての可能性がある ・泉佐野を案内するのに欠かせないものである ・自然と文化 ・南海沿線を中心にテーマを考えたい ・①がしっかりすれば、他のストーリーは自ずとついてくると思う ・参加者に高齢者が多く、町歩きの範囲が限られていること、起伏が激しくないことから ・市の歴史を知る施設としての役割を果たすため
②	<ul style="list-style-type: none"> ・泉佐野を案内するのに欠かせないものである ・南海沿線を中心にテーマを考えたい ・城郭ツアーが人気のため、焦点を当てれば販売につながる ・市の歴史を知る施設としての役割を果たすため

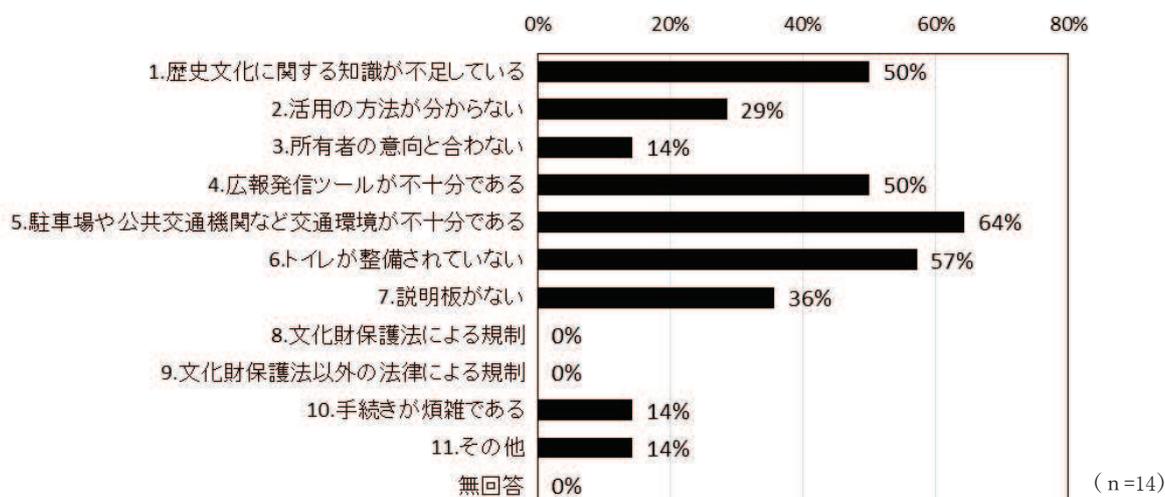
	理由
③	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源としての可能性がある ・泉佐野を案内するのに欠かせないものである ・南海沿線を中心にテーマを考えたい ・深く関わっておりよく知っている ・メジャーなところ ・市の歴史を知る施設としての役割を果たすため
④	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源としての可能性がある ・泉佐野を案内するのに欠かせないものである ・インバウンドや観光資源の対象として考えた時に犬鳴山が分かりやすい ・路線バスの系統から ・メジャーなところ ・市の歴史を知る施設としての役割を果たすため

⑤活用するうえでの支障事項

歴史文化資源を活用するうえで支障となっていることとしては、「駐車場や公共交通機関など交通環境が不十分である(64%)」、「トイレが整備されていない(57%)」、といった周辺環境整備の不足のほか、そもそも「歴史文化に関する知識が不足している(54%)」といった点、また「広報発信ツールが不十分である(50%)」が多く挙げられている。

「その他」としては文化財の詳細な情報や文献史料の把握が不十分であることが挙げられている。

問5 歴史文化資源を活用するうえで支障となっていることはありますか？（あてはまる番号すべてに○）



	歴史文化に関する知識が不足している	活用の方法が分からない	所有者の意向と合わない	広報発信ツールが不十分である	駐車場や公共交通機関など交通環境が不十分である	トイレが整備されていない	説明板がない	文化財保護法による規制	文化財保護法以外の法律による規制	手続きが煩雑である	その他	無回答	回答者数
観光・地域振興	2	1	1	2	4	4	2	0	0	0	0	0	5
交通	2	1	1	2	2	2	1	0	0	2	0	0	4
広報	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1
旅行	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
歴史・文化	2	1	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	3
総計	7	4	2	7	9	8	5	0	0	2	2	0	14
割合	50.0%	28.6%	14.3%	50.0%	64.3%	57.1%	35.7%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	100%

⑥活用するうえでの要望

活用するうえでの要望としては「財政的補助」が79%と圧倒的に多く、「泉佐野の歴史が分かるガイドブックやマップの発行」が64%、「歴史文化資源の活用に関する相談窓口の設置」が57%で続いている。

問6 歴史文化資源を活用するにあたって、どういう支援やツールがあるとよいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)



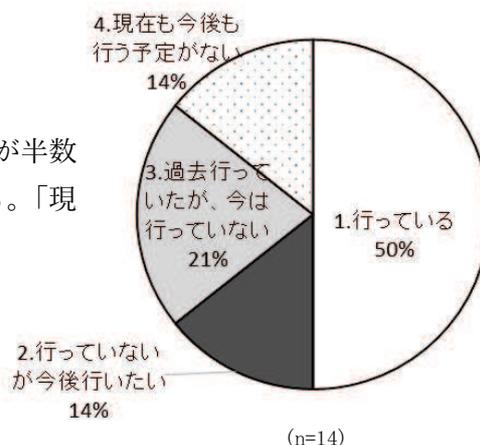
(n=14)

	財政的補助	文化財専門家の派遣	観光振興など活用に関する専門家の派遣	泉佐野の歴史が分かるガイドブックやマップの発行	歴史文化を紹介するHPの整備	所有者とのマッチング斡旋	歴史文化に関する研修の実施	資格・検定制度の実施	歴史文化資源の活用に関する相談窓口の設置	その他	無回答	回答者数
観光・地域振興	4	1	1	3	2	0	1	0	1	0	0	5
交通	3	3	2	3	2	2	1	1	4	0	0	4
広報	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1
旅行	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
歴史・文化	2	2	2	1	1	1	1	0	2	0	0	3
総計	11	6	6	9	6	4	3	1	8	0	0	14
割合	78.6%	42.9%	42.9%	64.3%	42.9%	28.6%	21.4%	7.1%	57.1%	0.0%	0.0%	100%

(2) 歴史文化資源を活用した取組み状況

①取組み状況

歴史文化を活用した取組み状況としては、「行っている」が半数を占め、観光・地域資源事業者、広報事業者はすべてである。「現在も今後行う予定がない」は14%である。



問7 現在、歴史文化資源を活用した取組みを行っていますか？（あてはまる番号1つに○）

	行っている	行っていないが今後行いたい	過去行っていたが、今は行っていない	現在も今後行う予定がない	総計
観光・地域振興	5	0	0	0	5
交通	1	0	1	2	4
広報	1	0	0	0	1
旅行	0	1	0	0	1
歴史・文化	0	1	2	0	3
総計	7	2	3	2	14
割合	50.0%	14.3%	21.4%	14.3%	100%

②現在の取組の内容

具体的な取組内容としては、「関連イベントの開催」として泉佐野郷土芸能の集いやキャラクター関連イベント等のイベント実施、まち歩きや観光コースへの組み入れ、体験メニューの実施、関連グッズや食事メニューの作成などが挙げられている。

問8 現在、行われている歴史文化資源を活用した取組み内容についてお聞かせください。

主な資源名称	取り組み概要	取組内容
泉佐野の歴史文化全体	⑥その他	・市民向けの講座の講師
佐野町場	②まち歩き ③観光コースへの組み入れ ⑥その他	・機関誌で佐野町場について紹介
ふるさと町屋館	⑥その他	・まち活関連講演会開催 ・キャラクター関連イベントの実施
上善寺本堂	⑥その他	・中心市街地・佐野町場エリアマネジメント事業の講演会の実施
日根荘	②まち歩き ③観光コースへの組み入れ	
樫井川と土丸城	②まち歩き ③観光コースへの組み入れ	
ちのうみ創生神楽	⑥その他	・MICE 開催の際の布石として、長者バルや神楽を実施 ・北庄司酒造で神楽を実施 ・神楽については淡路と枚岡と連携してプロモーション
樫井さくや踊り	④関連イベントの開催	・泉佐野郷土芸能の集い開催
佐野くどぎ	④関連イベントの開催	・泉佐野郷土芸能の集い開催
体験農園	①体験メニューの実施	・市内農家と連携して休耕田を活用して泉州の野菜作りを体験
特産品（農産物）	⑤観光資源としてグッズ等の作成	・水なす、玉ねぎ、キャベツ他で染色の泉州タオル製品開発・販売
ちぬうみ井の開発	⑥その他	・今年10月1日から「ちぬうみ井」として、泉州産の食材を使った丼ぶりメニューを提供 ・ガッチョの天ぷらを使ったものや、回鍋肉を使ったお店など現在約10件

③今後取り組みたい内容

今後取り組みたい内容としては、「茅渟海」と「佐野町場」、「樫井川」と「土丸城・樫井城」、犬鳴山、入山田・大木、酒蔵、農産品売場について観光コースやハイキングコース、まち歩きへの組み入れのほか、大井関まつりが挙げられている。

また、犬鳴山・犬鳴温泉川について、ユニークベニューの実証実験や、ます釣り、金魚すくいなども挙げられている。

問9 今後、行いたいと考える歴史文化資源を活用した取り組みについてお聞かせください。

主な資源名称	取り組み概要	取組内容
佐野町場 「茅渟海」と「佐野町場」	③観光コースへの組み入れ	・「海賊」をテーマにした歴史ツアーとして
	②まち歩き	・現地での説明会と歴史的な背景を身体で感じるウォーキングツアー ・文献、考古資料を活用しながら歴史の舞台を巡る
	⑥その他	
「樫井川」と「土丸城・樫井城」	③観光コースへの組み入れ	・城郭見学ツアーとして
	②まち歩き	・現地での説明会と歴史的な背景を身体で感じるウォーキングツアー ・文献、考古資料を活用しながら歴史の舞台を巡る
	⑥その他	
犬鳴山 犬鳴山・犬鳴温泉川 犬鳴山 七宝瀧寺と修験	①体験メニューの実施	・ユニークベニューの実証実験 ・ハイキングコース ・ます釣り、金魚すくい
	③観光コースへの組み入れ	
	④関連イベントの開催	
	②まち歩き	・古来から続く山岳信仰、修験の痕跡を舞台となった犬鳴山七宝瀧寺を中心にさぐるツアー ・様々な文献を残す大木エリアを散策する。
	③観光コースへの組み入れ	
入山田・大木	②まち歩き	
	③観光コースへの組み入れ	
大井関公園ろじ溪	④関連イベントの開催	・大井関まつり
酒蔵、農産品売場	③観光コースへの組み入れ	・産業観光の推進
史跡日根荘遺跡	②まち歩き	・現地での説明会と歴史的な背景を身体で感じるウォーキングツアー ・文献、考古資料を活用しながら歴史の舞台を巡る
	⑥その他	

④今後取り組みたいこと

今後取り組みたいこととしては、大將軍湯のインバウンド観光活用など外国人対応、大木のツアーの開催、泉州タオルや酒蔵見学の実施、樫井川の合戦を題材にしたセミナーの開催のほか、市の歴史資源に関する書籍の作成や学校教材の検討などが挙げられている。

問10 今後、歴史文化資源を活用して取り組みたいことがあればご自由にご記載ください。

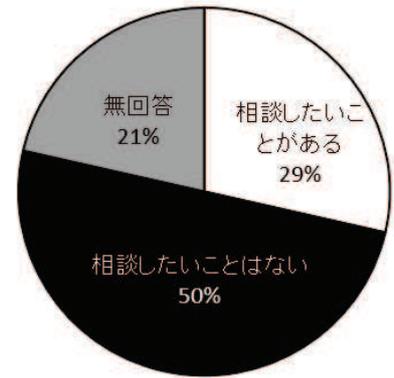
取り組みたいこと
市が取得した大將軍湯をコト消費するインバウンド観光等に活用したい。
MICEの際での文化財活用への促し、ちのうみ創生神楽のさらなる活用展開、ちぬうみ井のさらなる活用展開、文化財活用としてのさのぼ加盟店との連携、佐野町場での町歩き、土丸城での眺望の活用
・大木について、歴史・文化の学習及び企画ツアーの展開を図る。但し、交通（駐車場の整備含む）、トイレの設置、拠点となる場所（例：展示館）の整備を希望する。 ・新たな観光コースの開発。
泉州タオルや地酒の酒蔵見学や樫井川での合戦を題材としたセミナーの検討したい。
泉佐野の歴史文化に関する本の作成、学校と連携した教材開発等の子供向けの学習の取組、観光振興に繋がる産業とリンクしたブランド確立

(3) 保存・活用に係る意見

①相談内容

「相談したいことはない」が50%と半数を占める。「相談したいことがある」は観光・地域振興事業者で3件、旅行事業者で1件である。

相談内容としては、大將軍湯のインバウンド観光等への活用のほか、観光資源活用を図るための制約、ツアーで使える食事場所に関する相談が挙げられている。



(n=14)

問 11 歴史文化資源の活用に関して、泉佐野市文化財保護課にご相談したいことはありますか？（あてはまる番号1つに○）
ご相談したいことがある方は、その内容についてお聞かせください。

②問題点、意見

案内ボランティアの活用や民間施設とのタイアップに関する提案が挙げられたほか、観光マップの内容充実や外国人へのPRを含めた情報発信不足や資金投入不足、観光に対する意識の不足などが問題点として挙げられた。

また観光として、体験メニューやまち歩きは不可欠であり、観光の視点としてキラーコンテンツの必要性、とくに食文化への関心が重要であることが挙げられた。

このほか、歴史ストーリーに関連して、土丸城・樫井城の積極的なPRや、地元から関心が高く観光資源と連携しやすいと考えられる佐野町場について、ストーリーの強化、観光や物産店との連携等が挙げられた。

問 12 その他、歴史文化資源の保存・活用に関する問題点やご意見はありますか？

2. 課題事業連動表

◎：中心になって取り組む、○：協力して取り組む、△：取組みに参画しないが協力体制を整えておく
 地域住民：泉佐野市民・自治会、事業者：活動団体・観光協会・民間企業等、所有者：歴史文化資源及び指定文化財等所有者、専門家：大学・博物館等、行政：泉佐野市・教育委員会

表 歴史文化資源の保存・活用に関する措置

区分	課題	方針	対応	保存と活用に関する措置											
				事業名		事業概要	財源	取組主体					実施計画		
				事業名	事業概要			地域住民	事業者	所有者	専門家	行政	短期(2021-23)	中期(2024-26)	長期(2027-28)
調査研究	①歴史文化資源の調査・研究の不足	さらなる調査研究の推進	(1)さらなる歴史文化資源の発見	1-1	歴史文化資源の資料調査及びワークショップ等による実態把握調査	地域住民や専門家、事業者などの協力のもと、市内にある歴史文化資源（美術工芸品及び民俗文化財、保存技術、生活文化など）の調査を実施する。	市費	○	○	○	○	◎			
			(2)指定等を目指した文化財調査の実施	2-1	文化財指定等候補リストの調査推進	指定等の候補となる各種文化財の価値評価を行うとともに、指定等に向けた調査を進める。特に、佐野町場における歴史的建造物の登録に向けた調査を優先的に行う。	市費			○	○	◎			
			(3)発掘調査の実施	3-1	重要遺跡確認調査の実施	日根荘遺跡や榎井城跡等にかかわる重要遺跡確認調査を実施する。	国費・市費			○	○	◎			
				3-2	市内遺跡発掘調査及び調査研究の実施	重要遺跡を含む市内遺跡の把握に努め、その保存に向けた調査研究を継続させていく。	国費・市費			○	○	◎			
			(4)歴史文化資源に関する調査結果の整理	4-1	歴史文化資源データベースの更新・修正	歴史文化資源に関する調査の結果を受けて、常に最新の情報を把握するための更新作業を行う。	市費					◎			
保存・継承	①歴史文化資源の損失・損傷・劣化の危機	文化資源の保存管理の推進	(5)歴史文化資源の登録・認定制度の検討	5-1	泉佐野市認定制度の検討	泉佐野市独自の歴史文化資源の認定制度を定め、未指定文化財の保存と活用を図ることを検討する。	市費	○		○	○	◎			
			(6)歴史文化資源の毀損状況や管理状況の定期的な確認及び報告体制の整備、維持管理・修理に係る財政支援	6-1	歴史文化資源の毀損状況・管理状況の定期的な確認及び報告体制の整備	蟻通神社絵馬殿、妙光寺三十番神堂など指定等文化財を対象とした歴史文化資源について、毀損状況や管理状況を定期的に見回り確認する。また、これらに関する所有者・管理者からの報告体制を整備する。	市費			○		◎			
		防犯・防災対策の推進	(7)防犯対策の推進	7-1	防犯設備の整備	指定等文化財において、防犯カメラの設置等の整備を進める。	国費・府費・市費	△	△	◎	△	◎			
			(8)防災対策の推進（火災、震災、風水害）	8-1	防災設備の整備	指定等文化財において、防火設備の設置等の整備を進める。	国費・府費・市費	△	△	◎	△	◎			
				8-2	文化財防災意識の普及と啓発事業	シンポジウム、講演会、講座等を開催し、市民の防災意識を高める機会を設ける。	国費・市費	○	○	○	○	◎			
				8-3	所有者等による各種機器の点検	毎年、指定文化財において、消防署等の協力のもと、所有者等による機器点検を行い、適切な管理を促す。	府費・市費・所有者負担金			◎	○	○			
			8-4	定期的な巡視・監視・訓練等の住民参画による実施	佐野町場をはじめ、見守り隊等地域住民を巻き込んだ監視体制を整える。地域住民参画による訓練を実施する。	市費・所有者負担金			◎	○	○				
		(9)災害時の応急措置、復旧対応	9-1	災害情報の収集・伝達連絡網の整備	大規模災害の発生時の歴史文化資源の被害状況等に関する情報の収集及び伝達を行う連絡網を整備する。	市費	○	△	○	△	◎				
		祭礼・郷土文化の継承	(10)祭礼等の民俗文化財の担い手の育成及び継承	10-1	泉佐野郷土芸能の集いの開催	泉佐野市の指定無形民俗文化財である「佐野くどき」「榎井さんや踊り」等の民俗芸能の保存団体が一堂に会し交流することにより、互いの伝統文化（伝統芸能）をより理解する機会とし、今後の民俗芸能を普及継承するための環境づくり、担い手不足の解消を目指す。	国費・市費	◎	◎	◎	△	◎			
			10-2	後継者育成事業の実施	泉佐野市文化遺産活用活性化実行委員会（泉佐野市観光ボランティア協会、長南校区地域文化伝承実行委員会、和太鼓クラブ泉州雅など）が主体となって、「佐野くどき」「榎井さんや踊り」「火走神社担いダンジリ」「日根神社まくらまつり」の練習会や体験学習などを実施する。	国費・市費	○	◎	○	○	○				
			10-3	ザ・まつり in Izumisano の開催	泉佐野における「伝統文化」である「だんじり」と、より多くの市民が参加できる新しい「まつり」の「よさこい鳴子踊り」の両者が合体したイベントを開催し、伝統文化の継承を図る。	国費・市費	◎	◎	◎	△	◎				
10-4	伝統芸能の創出		泉佐野地域に伝わる神話などを題材とした独自の舞である「ちぬうみ創生神楽」等と連携しながら、今は実施されていない芸能も視野に入れながら定期的に開催する。	市費・事業者負担金			◎			◎					
(11)郷土文化の継承	11-1	郷土文化の普及、啓発活動の実施	郷土文化の特性や継承の社会的意義を分かりやすく正しく伝えるためHPやSNS等による情報発信の機会を設ける。	市費	○	◎	○		◎						

参考資料

区分	課題	方針	対応	保存と活用に関する措置									実施計画		
				事業名	事業概要	財源	取組主体					短期 (2021-23)	中期 (2024-26)	長期 (2027-28)	
							地域 住民	事業 者	所有 者	専門 家	行政				
	②歴史文化資源の保存活用に係る資金の不足	財政的支援の展開	(12)支援制度の情報提供	12-1	歴史文化資源の保存、修景、整備に対する支援についての情報提供	行政補助、民間事業者等支援などの情報を市 HP において詳細に正しく伝える。	市費		○	○	○	◎			
			(13)資金調達の多様な仕組みづくり	13-1	寄付・クラウドファンディング等の活用	建造物修理工事等に向けた支援体制の構築	市費・寄付金	○	○	○	○	◎			
	③保存・継承に関する人材の減少	保存・継承に関する人材育成の推進	(14)保存・継承に関する人材の育成	14-1	継続的な学習、体験等事業の実施	歴史館いづみさの及び学校、公民館において、養成講座、体験学習等の機会を設け、民俗文化財、記念物、文化的景観等に関する新たな継承者を育成し、担い手の確保を継続的に推進する。	国費・市費	○	○	○	○	◎			
公開・活用	①不十分な公開・見学の機会・環境	公開、見学の機会の創出	(15)公開、見学の機会の創出	15-1	レプリカ等による公開展示方法の検討	常時公開されていない美術工芸品の写真のパネル化やレプリカ作成等、歴史文化資源を知ってもらう機会を創出する公開展示方法を検討する。	市費	△	△	○	○	◎			
				15-2	ユニークベニューの実証実験の実施	歴史文化資源の新たな公開・活用手法を検討するため、旧新川家住宅等歴史的建造物等を会議・レセプション施設として活用するユニークベニューの実証実験を行い、検討する。	地方創生推進交付金・国費・市費	△	◎	◎	△	◎			
				15-3	AR・VRによる公開	AR・VRによる先端技術を活用し、歴史文化資源の公開・見学の機会を創出する。	国費・市費		○	○	○	◎			
		(16)歴史館における公開展示	16-1	歴史文化資源の展示会の実施	歴史館の資料及び指定等文化財を中心に市の歴史文化に触れる機会として定期的に展覧会を実施する。	市費		◎	○	◎	◎				
		見学環境の整備	(17)見学環境の整備	17-1	見学環境の整備	歴史文化資源の見学環境を向上させるために、日根野・土丸・大木地区、佐野町場の駐車場やトイレ、ガイダンス施設を整備する。	国費・市費	○	△	○		◎			
			17-2	2次交通機関の整備検討	海から山に至る史跡や重要文化的景観等に至る交通手段の検討及び整備	国費・市費	△	○			◎				
	(18)説明板、案内板の整備	18-1	説明板、案内板の改修・新設	市内各所の劣化した指定等説明板、案内板を改修する。また、歴史文化資源を活用するうえで必要な説明板、案内板の設置を進める。特に、海が育む職能・伝統により形成されてきた関連文化財群（佐野町場）及び壱井川と街道沿いにおいて形成されてきた関連文化財群（奥家住宅）周辺に関する説明板や案内板を優先的に整備する。	国費・市費	○	△	○	△	◎					
	②歴史文化に関する子どもの理解不足	教育的推進	(19)郷土教育の推進	19-1	学芸員等の出前授業の実施（学校教育）	小中学校と連携し、学芸員等による学童・学生向けの出前授業を実施する。	市費		○		○	◎			
			(20)学習教材・副読本の作成と活用支援	20-1	歴史文化に関する子ども向け学習教材の作成	泉佐野の歴史文化に関わる子ども向けの漫画等学習教材・副読本を作成し、全校配布する。	市費		○		△	◎			
	③価値・魅力の普及・発信不足	効果的な普及啓発・情報発信の推進	(21)地域住民・来訪者への普及啓発	21-1	絵本・漫画等による普及啓発	泉佐野の歴史文化を紹介する絵本・漫画等を市の公共施設や地域の公民館に配架して、分かりやすい歴史文化の普及啓発を実施する。	国費・市費	◎	△	△	△	◎			
21-2				市広報誌、HP での普及啓発	地域住民への普及啓発につなげるために、市広報誌、HP において定期的に市内の歴史文化資源を紹介する。	市費					◎				
21-3				公共機関等での歴史文化資源のPR事業の展開	市民や来訪者に視覚的かつ潜在的に泉佐野の歴史文化について伝えるために、関西国際空港や主要鉄道駅・商業施設等でPRを展開し、ポスター・ちらし等の配架とバスラッピング等を実施する。	国費・市費		◎				◎			
21-4				学芸員等の出前授業の実施（生涯学習）	地域と連携し、学芸員等による地域住民向けの出前授業を実施する。	市費		○		○	◎				
21-5				各地PRイベント会場での連携事業の実施	泉佐野東京事務所及び東京いづみさの会における事業実施や協定締結市町村との連携イベントの場において首都圏等を含む他地域に向けての歴史文化PR事業を展開する。	市費		○			◎				
(22)インバウンドへの普及啓発			22-1	多言語による歴史文化紹介サイト等の構築	関西国際空港を利用する外国人を市域に誘導するため、多言語による歴史文化紹介サイトを整備し、国際都市いづみさののPR事業を展開する。	国費・市費		○				◎			
			22-2	観光ボランティアガイド等による外国人向け観光ツアーの実施	泉佐野観光ボランティア協会や泉佐野地域通訳案内士協会の協力のもと、佐野町場等において、観光ボランティアガイドや通訳案内士による外国人向けの歴史文化観光ツアーを実施する。	国費・市費	○	◎	○		○				
	22-3	MICE開催時における歴史文化観光ツアーの実施	MICE開催時に国内外から集まる人に対して、観光商業拠点りんくうタウン等から誘導して、海から山にかけて泉佐野市内の歴史文化資源を巡る観光ツアーを開催する。	地方創生推進交付金・国費・市費	○	◎	○		○						

区分	課題	方針	対応	保存と活用に関する措置												
				事業名	事業概要	財源	取組主体					実施計画				
							地域住民	事業者	所有者	専門家	行政	短期 (2021-23)	中期 (2024-26)	長期 (2027-28)		
④より魅力的な観光・産業振興を推進するうえでの歴史文化資源の活用の必要性		歴史文化資源を活用した観光振興・産業振興の推進	(23)分かりやすい歴史文化のガイドブック・HPの作成	23-1	分かりやすい歴史文化のガイドブック・SNS等の作成	歴史に興味のない人にも分かりやすい泉佐野市の歴史文化を紹介するガイドブックを作成し、観光案内所や公共施設等において配架する。また、SNS等でも公開することで、市内外の人に広く発信する。	国費・市費	△	○	△		◎				
			(24)歴史文化資源を活かした観光振興	24-1	周遊ルートの設定	歴史文化を巡る歩きやすく、分かりやすい周遊ルートを設定する。特に、日根荘、佐野町場、葛城修験について、日本遺産を巡るルート設定を優先的に行う。	国費・市費	△	○	△		◎				
			(25)インバウンドの受入環境の整備	25-1	観光誘致施策の推進	ナイトタイムエコノミー推進に向けた夜市等の開催や野外文化堂等があるりんくうタウンと3つの日本遺産を活用した誘客の推進、滞留時間の拡大及び来訪者の豊かな旅の演出による満足度の向上を図る。また、QRコードのある案内板を整備し、多言語観光案内のコンテンツ拡充や防災情報提供の充実を図る。	地方創生推進交付金・国費・市費	○	◎			◎				
			(26)地場産業と一体となった歴史文化資源の活用	26-1	地場の食材を使った飲食メニューの開発	農林漁業に係る関係機関と連携し、がっちょ、じゃこごうこ、水なす、日根荘酒米等の泉佐野産（もん）を地域ブランドとして伝えていくために、地域の活動団体や飲食店等と連携していく。地域の食材と地域の歴史文化を活用した新規飲食メニュー（ちぬうみ井など）を開発、発信する。	地方創生推進交付金・国費・市費	△	◎			◎				
				26-2	産業振興と連携した地域ブランドの確立	泉州タオルや酒蔵など市内にある産業資源と連携して、泉佐野の歴史文化の要素を取り入れた地域ブランドの確立を進める。	地方創生推進交付金・国費・市費	△	◎			◎				
			(27)歴史文化資源の観光活用の円滑化	27-1	歴史文化資源の観光活用を円滑に進めるためのプラットフォームシステムの構築	歴史文化資源の観光活用を円滑に進めるために、文化財保護課と関係機関等が連携して、観光振興と文化財活用が一つになったプラットフォームのシステムを構築する。また、それらを実施するためWi-Fi環境の整備を行う。	市費		○		△	◎				
			(28)公開・活用に関する人材の育成	28-1	文化遺産の活性化推進事業等の活用及びその実施	泉佐野市文化遺産活用活性化実行委員会が主体となって、芸能の担い手養成講座、体験講座などの人材育成事業を実施する。また事業に参画する文化財保存団体及び関係諸団体間の交流と連携を促進し、新たな事業創造へ向けて体制作り等の検討を行う。	国費・市費・地元負担	○	◎	○	○	○				

◎：中心になって取り組む、○：協力して取り組む、△：取組みに参画しないが協力体制を整えておく
 地域住民：泉佐野市民・自治会、事業者：活動団体・観光協会・民間企業等、所有者：歴史文化資源及び指定文化財等所有者、専門家：大学・博物館等、行政：泉佐野市・教育委員会

表 関連文化財群の保存・活用に関する措置

方針	事業名	事業概要	財源	取組主体					実施計画			
				地域住民	事業者	所有者	専門家	行政	短期 (2021-23)	中期 (2024-27)	長期 (2028-30)	
海が育む職能・伝統により形成されてきた関連文化財群に関する措置												
(1)大將軍湯の保存活用	1-1	国登録有形文化財大將軍湯保存活用計画の作成	計画的な保存・活用を進めるため、国登録有形文化財大將軍湯保存活用計画を策定する。作成した計画に基づき、保存活用を推進する。	文化庁補助金・市費			○	○	◎			
	1-2	国登録有形文化財大將軍湯保存修理工事の実施	国登録有形文化財大將軍湯の保存修理工事を実施する。	文化庁補助金・市費			○	○	◎			
(2)佐野町場の保全と地域でのまちづくりの推進	2-1	文化財指定等候補リストの調査推進	特に朝日湯、いろは蔵等、佐野町場における歴史的建造物の登録に向けた調査を優先的に行う。	市費			○	○	◎			
	2-2	犬鳴山や佐野町場等の歴史文化資源を活かした観光振興の推進	泉佐野の主要な観光地である佐野町場等において、関連文化財群のストーリーや歴史文化資源を観光資源と生産地を活かして、店舗誘致や土産品開発など歴史文化資源とエリアを連携させた着地型観光振興を推進する。	文化庁補助金・地方創生推進交付金・市費	○	◎	◎		◎			
	2-3	佐野町場におけるまちなみ保全に向けた戦略計画の策定	佐野町場におけるまちなみ保全に向けた計画を策定する。歴史性を考慮した都市再生計画と佐野町場の特徴に対応した柔軟な法制度や事業展開を計画する。「いろは蔵」「大將軍湯」「旧新川家住宅」の歴史建造物や古図より復原した空間整備と地域の空き家や空き店舗等の遊休不動産の活用（例えばまちやど事業）が一体となった取り組みを推進する。また、歴史建造物の保存に関わる条例制定や財政支援を検討する。	地方創生推進交付金・市費・所有者負担	○	◎	△	○	◎			
	2-4	歴史的建造物のエリアマネジメント活用	佐野町場における大將軍湯や旧新川家住宅（ふるさと町屋館）など歴史的建造物を中心としたエリアにおいて体験型の観光メニュー等を実施し、観光資源としての活用を実施する。	地方創生推進交付金・観光庁補助金・市費	△	○	○	△	◎			
	2-5	佐野町場周辺の歴史的建造物の保存活用整備	旧新川家住宅、大將軍湯等の市指定及び登録文化財や日本遺産を構成する建造物の存在を地域全体で保存・活用していく。また、そのための整備を行っていく。	文化庁補助金・市費			◎	○	◎			
(3)日本遺産（北前船）の事業推進	3-1	日本遺産に関する案内ガイド養成	佐野町場、北前船船主に関する案内ガイドを養成し、ガイドの自律的運営を推進する。	文化庁観光庁補助金・市費	○	◎	△	○	◎			
	3-2	日本遺産に関するシンポジウム・講演会・パネル展等の開催	北前船及び豪商食野・唐金家に関するシンポジウム・講演会・パネル展等を開催し、国内外に周知する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		○	○			
	3-3	日本遺産に関する情報コンテンツの作成（特設HP・パンフレット等）	北前船に関する情報コンテンツ（特設HP・パンフレット等）を作成する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		○	○			
	3-4	日本遺産ガイダンスセンター及び佐野町場での情報発信	令和3年（2021）1月に整備された日本遺産ガイダンスセンター、旧新川家住宅などにおいて、情報発信を実施する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		△	○			
	3-5	日本遺産に関する説明板・案内板の設置	佐野町場に関する説明板・案内板を設置する。	文化庁観光庁補助金・市費	△	◎	○	△	○			
	3-6	便益施設の整備	佐野町場の見学環境を向上させるためのトイレ・駐車場等の便益施設を整備する。	文化庁観光庁補助金・市費	○	◎	○		○			
	3-7	周遊ルートの設定	歴史文化を巡る歩きやすく、分かりやすい周遊ルートを設定する。特に、北前船を巡るルート設定を優先的に行う。	文化庁観光庁補助金・市費	△	○	△		◎			
(4)関連文化財群のストーリーの発信	4-1	説明板、案内板の改修・新設	海が育む職能・伝統により形成されてきた関連文化財群に関する関連文化財群の説明板、案内板を整備する。	文化庁観光庁補助金・市費	○	△	○	△	◎			
	4-2	関連文化財群に関する情報発信	海が育む職能・伝統により形成されてきた関連文化財群に関するHP、ガイドブックウォーキングマップ等を発刊する。	文化庁観光庁補助金・市費	△	○	△		◎			
樫井川と街道沿いにおいて形成されてきた関連文化財群に関する措置												
(1)奥家住宅の保存活用	1-1	重要文化財奥家住宅保存活用計画の作成	計画的な保存・活用を進めるため、重要文化財奥家住宅保存活用計画を作成する。作成した計画については国の認定を目指す。	文化庁補助金・市費			○	○	◎			
	1-2	重要文化財奥家住宅保存修理工事の実施	重要文化財奥家住宅の活用のための保存修理工事を実施する。	文化庁補助金・市費			○	○	◎			
(2)加支多神社、蟻通神社等の保存修理	2-1	加支多神社、蟻通神社等の国登録文化財の保存修理と申請	未指定文化財である加支多神社の国登録文化財の申請を行い、加支多神社、蟻通神社等の保存修理工事を行う。	文化庁補助金・市費			◎	○	○			
(3)樫井城の調査の実施	3-1	重要遺跡確認調査の実施	樫井城跡周辺にかかわる重要遺跡確認調査を実施する。	文化庁補助金・市費			○	○	◎			
(4)樫井川沿いでの回遊性の構築	4-1	かわまちづくり事業	国土交通省の登録事業として樫井川の親水護岸や管理用通路を整備し、周辺の歴史資源や自然環境を活かした魅力ある水辺空間を創出する。川辺での神楽や古戦場跡、日根神社など、国史跡や日本遺産日根荘と流域内の観光ポテンシャルを活用したサイクリングロードやウォーキングの回遊性を高め、市域全体のサービス提供に取り組む。	社会資本整備総合交付金・府費・市費	○	◎		○	◎			
(5)関連文化財群のストーリーの発信	5-1	説明板、案内板の改修・新設	樫井川と街道沿いにおいて形成されてきた関連文化財群に関する関連文化財群の説明板、案内板を優先的に整備する。	文化庁観光庁補助金・市費	○	△	○	△	◎			
	5-2	関連文化財群に関する情報発信	樫井川と街道沿いにおいて形成されてきた関連文化財群に関するHP、ガイドブックウォーキングマップ等を発刊する。	文化庁観光庁補助金・市費	△	○	△		◎			

方針	事業名	事業概要	財源	取組主体					実施計画			
				地域住民	事業者	所有者	専門家	行政	短期(2021-23)	中期(2024-27)	長期(2028-30)	
中世荘園により形成されてきた関連文化財群に関する措置												
(1)日根荘遺跡の保存・活用	1-1	重要遺跡確認調査の実施	日根荘遺跡にかかわる重要遺跡(土丸・雨山城跡、香積寺跡、野々宮跡等の指定地と中近世絵図に記載され未だ不明な無辺光院等)確認調査及び測量を実施する。	文化庁補助金・市費			○	○	◎			
	1-2	史跡日根荘遺跡保存活用計画の改訂(見直し)	計画的な保存・活用を進めるため、概ね5年で史跡日根荘遺跡保存活用計画を改訂(見直し)する。改訂した計画については国の認定を目指す。	文化庁補助金・市費			○	○	◎			
	1-3	史跡日根荘遺跡等整備計画の作成	計画的な整備を進めるため、史跡日根荘遺跡整備計画を作成する。	文化庁補助金・市費	△	△	○	○	◎			
	1-4	日根荘遺跡・重要文化的景観に関わる展覧会等の実施	指定等文化財を含む各種文化財や資料を展示する日根荘遺跡等に関わる展覧会を実施する。(山の暮らしと信仰により形成されてきた関連文化財群と重複)	文化庁補助金・市費		△	△	○	◎			
	1-5	見学環境の整備	史跡日根荘遺跡等整備計画等を踏まえた見学環境(ハイキング、ウォーキング)の整備を進める。	文化庁補助金・市費	○	△	○		◎			
	1-6	2次交通機関の整備検討	海から山側にある史跡や重要文化的景観に至る交通手段(主にバス・タクシー・電動サイクル)の検討及び整備(山の暮らしと信仰により形成されてきた関連文化財群と重複)	文化庁観光庁補助金・市費	△	○			◎			
	1-7	日根荘遺跡・重要文化的景観等の眺望景観の整備	土丸・雨山城(土丸側)の山頂付近から日根荘等が一望できるように眺望景観を整備し、またアクセス道となる山道も歩きやすくなるように整備する。(山の暮らしと信仰により形成されてきた関連文化財群と重複)	文化庁観光庁補助金	○		○		◎			
(2)旧向井家住宅の保存修理	2-1	泉佐野市指定文化財旧向井家住宅保存修理工事の実施	泉佐野市指定文化財旧向井家住宅の美装化に関わる保存修理工事を実施する。茅葺きの葺き替えは地域参加型で整備する。	市費			○	○	◎			
(3)日本遺産(日根荘)の事業推進	3-1	日本遺産に関する案内ガイド養成	日本遺産日根荘に関する案内ガイドを養成し、自律継続可能なガイド組織を推進する。	文化庁観光庁補助金・市費	○		△	○	◎			
	3-2	日本遺産に関するシンポジウム・講演会・パネル展等の開催	日本遺産日根荘に関するシンポジウム・講演会・パネル展等を開催し、国内外に周知する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		○	○			
	3-3	日本遺産に関する情報コンテンツの作成(特設HP・パンフレット等)や関連事業との連携	日本遺産日根荘に関する情報コンテンツ(特設HP・パンフレット等)の作成や関連企業・団体の事業と連携する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		○	○			
	3-4	日本遺産ガイダンスセンターでの情報発信	令和3年(2021)1月に整備された日本遺産ガイダンスセンターにおいて展示を行い、様々な情報発信を実施する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		△	○			
	3-5	日本遺産に関する説明板・案内板の設置	日本遺産日根荘に関する説明板・案内板を設置する。	文化庁観光庁補助金・市費	△	◎	○	△	○			
	3-6	便益施設の整備	日本遺産日根荘の見学環境を向上させるためのトイレ・駐車場等の便益施設を整備する。	文化庁観光庁補助金・市費	○	◎	○		○			
	3-7	周遊ルートの設定	歴史文化を巡る歩きやすく、分かりやすい周遊ルートを設定する。特に、日本遺産日根荘を巡るルート設定を優先的に行う。	文化庁観光庁補助金・市費	△	○	△		◎			
(4)関連文化財群のストーリーの発信	4-1	関連文化財群に関する情報発信	日本遺産を含めた日根荘中世荘園により形成されてきた関連文化財群に関するHP、ガイドブックウォーキングマップ等を発刊する。	文化庁観光庁補助金・市費	△	○	△		◎			
山の暮らしと信仰により形成されてきた関連文化財群に関する措置												
(1)重要文化的景観の保存・活用	1-1	2次交通機関の整備検討	史跡や重要文化的景観(大木地区)に至る交通手段の検討及び整備(中世荘園により形成されてきた関連文化財群と重複)	観光庁補助金・市費	△	○			◎			
	1-2	日根荘遺跡・重要文化的景観等の眺望景観の整備	土丸・雨山城跡の山頂付近から日根荘等が一望できるように眺望景観を整備し、日根荘大木の里コスモス園、農村景観を眺望できるスポットを整備する。(中世荘園により形成されてきた関連文化財群と重複)	文化庁観光庁補助金	○		○		◎			
	1-3	重要文化的景観大木の農村景観整備計画の作成	計画的な整備を進めるため、社会情勢の変化や法改正に応じた定点観測や経年変化に応じた整備ガイドラインや基本計画や重要文化的景観大木の農村景観整備計画を作成する。	文化庁補助金・市費	△	△	○	○	◎			
	1-4	重要文化的景観日根荘大木の農村景観における重要な構成要素の追加指定	重要文化的景観日根荘大木の農村景観において、景観を構成する重要な要素を再確認し、所有者への周知、補助金支援等を実施することで追加指定を進める。	市費	△	△	○	○	◎			
	1-5	日根荘遺跡・重要文化的景観に関わる展覧会等の実施	重要文化的景観日根荘大木の農村景観等に関わる展覧会を実施する。(中世荘園により形成されてきた関連文化財群と重複)	文化庁補助金・市費		△	△	○	◎			
	1-6	大木まちづくり協議会への活動支援	地元団体大木まちづくり協議会が実施する「日根荘大木の里コスモス園」「史跡日根荘遺跡長福寺跡活用事業」等への財政的支援をや大木小学校の活動を支援する。	市費	○	◎	△	○	◎			
(2)犬鳴山を活用した観光振興	2-1	犬鳴山や佐野町場等の歴史文化資源を活かした観光振興の推進	泉佐野の主要な観光地である犬鳴山七宝瀧寺、犬鳴山温泉がある大木地区において、関連文化財群のストーリーや歴史文化資源を観光資源として活かして、店舗誘致や土産品開発など歴史文化資源とエリアを連携させた観光振興を推進する。	文化庁観光庁補助金・市費	○	◎	◎		◎			
(3)日本遺産(葛城修験)の事業推進	3-1	日本遺産に関する案内ガイド養成	葛城修験に関する案内ガイドや修験道の保存会を養成し、自律継続可能なガイド組織を他の自治体とともに推進する。	文化庁観光庁補助金・市費	○		△	○	◎			
	3-2	日本遺産に関するシンポジウム・講演会・パネル展等の開催	葛城修験に関するシンポジウム・講演会・パネル展等を開催し、他自治体と連携し、国内外に周知する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		○	○			
	3-3	日本遺産に関する情報コンテンツの作成(特設HP・パンフレット等)	葛城修験に関する情報コンテンツ(特設HP・パンフレット等)を作成し、普及啓発を行う。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		○	○			
	3-4	日本遺産ガイダンスセンターでの情報発信	令和3年(2021)1月に整備された日本遺産ガイダンスセンターにおいて、情報発信を実施する。	文化庁観光庁補助金・市費		◎		△	○			
	3-5	日本遺産に関する説明板・案内板の設置	葛城修験に関する説明板・案内板を七宝瀧寺を中心に設置する。	文化庁観光庁補助金・市費	△	◎	○	△	○			
	3-6	便益施設の整備	葛城修験(特に七宝瀧寺中心)の見学環境を向上させるためのトイレ・駐車場等の便益施設を整備する。	文化庁観光庁補助金・市費	○	◎	○		○			

参考資料

方針	事業名		事業概要	財源	取組主体					実施計画		
					地域 住民	事業 者	所有 者	専門 家	行政	短期 (2021-23)	中期 (2024-27)	長期 (2028-30)
	3-7	周遊ルートの設定	歴史文化を巡る歩きやすく、分かりやすい周遊ルートを設定する。特に、葛城二十八宿を巡るルート設定を優先的に行う。	文化庁観光庁補助金・市費	△	○	△		◎			
(4)関連文化財群のストーリーの発信	4-1	関連文化財群に関する情報発信	山の暮らしと信仰により形成されてきた関連文化財群に関するHP、ガイドブックウォーキングマップ等を発刊する。	文化庁観光庁補助金・市費	△	○	△		◎			